第1回セルフメディケーション推進に関する有識者検討会 - 議事次第 -

【日時】令和3年2月3日(水) 14:00-15:30 【場所】厚生労働省 省議室(9階)

【議題】

1) セルフメディケーション税制の見直しについて

【配付資料】

座席表

資料 1 : セルフメディケーション税制の見直しについて(厚生労

働省医政局経済課)

資料 2 : 五十嵐参考人提出資料

黒川構成員提出資料

幸野構成員提出資料

平野構成員提出資料

三井構成員提出資料

【参考資料】

参考資料1: 開催要綱

参考資料2: セルフメディケーション税制 16 万人調査の結果(日本 OTC

医薬品協会)

セルフメディケーション推進に関する有識者検討会(令 和 2 年 度 第 1 回)座 席 表

令和3年2月3日(水) 省 議 室 14:00 ~ 15:30

WEB参加者:

井深委員、幸野委員、関委員、中島委員、 中野委員、三井委員、宮川委員

中野委員、三井委員、宮川委員 速記 モニター 保険局 田嶋保険課長補佐 ○ 平野委員 医薬·生活衛生局 吉田医薬品審査管理課長 ○ 宗林委員 医薬·生活衛生局 内田総務課企画官 ○ 黒川委員 0 0 0 • • • 菅原座長 千医 迫医 林医 五 岩月委員 田政 十嵐参考人 井政 経政 田経済課長補佐 政局 済湯 局局 長 受付 傍聴者席 入口

第1回セルフメディケーション推進に関する有識者検討会 資料1

セルフメディケーション税制の 見直しについて

令和3年2月3日 厚生労働省医政局経済課

セルフメディケーション税制の拡充範囲の検討の進め方

有識者会議の立ち上げ

- 12月21日に決定された政府税制改正大綱においては、セルフメディケーション税制について、**5年間の延長**(2022年~2026年)とともに、対象医薬品について、
 - ① 所要の経過措置(5年未満の必要範囲内)を講じた上、**対象となるスイッチOTCから、医療費適正化効果 が低いと認められるものを除外**する
 - ② スイッチOTC以外の一般用医薬品等で、医療費削減効果が著しく高いと認められるもの(3薬効程度)を対象に加えることされた。
- 上記の具体的な範囲については、専門的な知見を活用して決定するとともに、見直しによる効果の検証方法について も検討することが求められている。
- これらを踏まえ、セルフメディケーション税制の対象医薬品の範囲及び今後の医療費削減効果等の検証方法を議論するための有識者会議を新たに立ち上げる。
- (※)本有識者会議は、関係部局の協力の下で、セルフメディケーション税制を担当する医政局長が招集する。

今後のスケジュール

- 令和3年2月3日 第1回有識者会議
- ~令和3年3月末頃 2回程度開催し、税制対象範囲を決定
- 令和3年4月以降 具体的な効果検証の方法や税制以外の施策も含め、引き続き検討

会議の構成案

- 日本医師会、日本薬剤師会、日本歯科医師会
- 消費者
- 医療保険者
- OTCメーカー、卸、ドラッグストア
- 有識者 (医療経済学等)

セルフメディケーション(自主服薬)推進のためのスイッチOTC薬控除(医療費控除の特例)

(所得税、個人住民税)

1. 大綱 (2015年12月) の概要

適切な健康管理の下で医療用医薬品からの代替を進める観点から、健康の維持増進及び疾病の予防への取組として一定の取組(※1)を行う個人が、平成29(2017)年1月1日から令和3(2021)年12月31日までの間に、自己又は自己と生計を一にする配偶者その他の親族に係る一定のスイッチOTC医薬品(※2)の購入の対価を支払った場合において、その年中に支払ったその対価の額の合計額が1万2千円を超えるときは、その超える部分の金額(その金額が8万8千円を超える場合には、8万8千円)について、その年分の総所得金額等から控除する。

- (※1)特定健康診査、予防接種、定期健康診断、健康診査、がん検診
- (※2)要指導医薬品及び一般用医薬品のうち、医療用から転用された医薬品 (類似の医療用医薬品が医療保険給付の対象外のものを除く。)
- (注) 本特例の適用を受ける場合には、現行の医療費控除の適用を受けることができない。

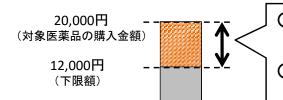
※セルフメディケーションは、世界保健機関(WHO)において、「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と定義されている。

2. 制度の内容

- ■対象となる医薬品(医療用から転用された医薬品:スイッチOTC医薬品)について
 - スイッチOTC医薬品の成分数:87(令和2年5月8日時点)
 - 対象となる医薬品の薬効の例:かぜ薬、胃腸薬、鼻炎用内服薬、水虫·たむし用薬 、肩こり·腰痛·関節痛の貼付薬 (注)上記薬効の医薬品の全てが対象となるわけではない
 - セルフメディケーション税制の適用人数は平成30年分は2.6万人、令和元年分は3万人
 - 医療控除の適用人数は平成30年分は760万人、令和元年分は756万人

本特例措置を利用する時のイメージ

○ 課税所得400万円の者が、対象医薬品を年間20,000円購入した場合(生計を一にする配偶者その他の親族の分も含む)



- 8,000円が課税所得から控除される
 - (対象医薬品の購入金額:20,000円-下限額:12,000円=8,000円)
- つ 減税額
 - •所得税:1,600円の減税効果(控除額:8,000円×所得税率:20%=1,600円)
 - ·個人住民税:800円の減税効果(控除額:8,000円×個人住民税率:10%=800円)

現行のスイッチOTC/非スイッチOTCの代表的な品目

薬効分類	スイッチOTC代表品目	非スイッチ代表品目
解熱鎮痛消炎剤	バファリンプレミアム BUFFERIN PREMIUM SERVICE STREET	パファリン A BUFFERIN, 80m mmmm
総合感冒剤	パブロンSゴールドW微粒	パブロンゴールドA <微粒>
鎮痛,鎮痒,収斂,消炎剤	ロキソニン S テープ ロキソニン S テープ	サロンパス
耳鼻科用剤	エージーノーズアレルカットC	ナザール「スプレー」
鎮咳去たん剤	ベンザブロックせき止め錠 ************************************	ベンザブロックせき止め液
アレルギー用薬	アレジオン20 アレジオン(20 ************************************	エスタック鼻炎カプセル 1 2 **********************************

スイッチOTCの年間購入金額

16万人の生活者調査結果 (2019年3月)



	割合		
年間購入金額	全て含む	12,000円未満 除く	
0円	76.8%	_	
0 - 12,000円未満	19.3%	_	
12,000 - 20,000円未満	1.5%	38.5%	
20,000 - 30,000円未満	1.0%	25.6%	
30,000 - 40,000円未満	0.5%	12.8%	
40,000 - 50,000円未満	0.1%	2.6%	
50,000 - 100,000円未 満	0.5%	12.8%	
100,000円以上	0.3%	7.7%	

「0円」の回答者を含む。「わからない」の回答者を除く。

出所:日本OTC医薬品協会作成資料

セルフメディケーション税制の見直し(案)

少子高齢化社会の中で限りある医療資源を有効活用し、国民の健康づくりを促進することが重要であり、国民が適切な健康管理の下、セルフメディケーション(自主服薬)に取り組む環境を整備することが、医療費の適正化にも資する。この観点から以下のとおりセルフメディケーション税制の見直しを行う。

	現行制度			
適用期間	平成29年1月1日から <u>令和3年12月</u> <u>31日まで</u>			
適用の要件	一定の健康診査等又は予防接種を受けていること等、健康の保持増進及び疾病の予防への取組(※)を行っていることが要件			
税制対象 医薬品	いわゆる <u>スイッチOTC薬</u>			
所得税控除	購入費用(年間10万円を限度)のうち 1.2万円を超える額を所得控除			
必要な手続き	 取組(予防接種等)に関する書類は 確定申告書への添付が必要(e- Taxの場合は手元保管) 医薬品購入費は明細を添付 			

- (1) 健康診査(いわゆる人間ドック等で、医療保険者が行うもの)
- (2) 予防接種
- (3) 定期健康診断(事業主健診)
- (4) 特定健康診査(いわゆるメタボ健診)
- (5) がん検診
- (注)改正後も、医療費控除との選択制とする。

改正案

適用期限を、令和4年1月1日から<u>令和8年12月31日まで5年</u> 延長

(同左)

対象をより効果的なものに重点化

- スイッチOTC薬から、効果の薄いものを対象外とする
- ・ とりわけ<u>効果があると考えられる薬効(3薬効程度)につい</u> て、スイッチOTC成分以外の成分にも対象を拡充
- (注)上記の具体的な内容等は、専門的な知見も活用して決定

(同左)

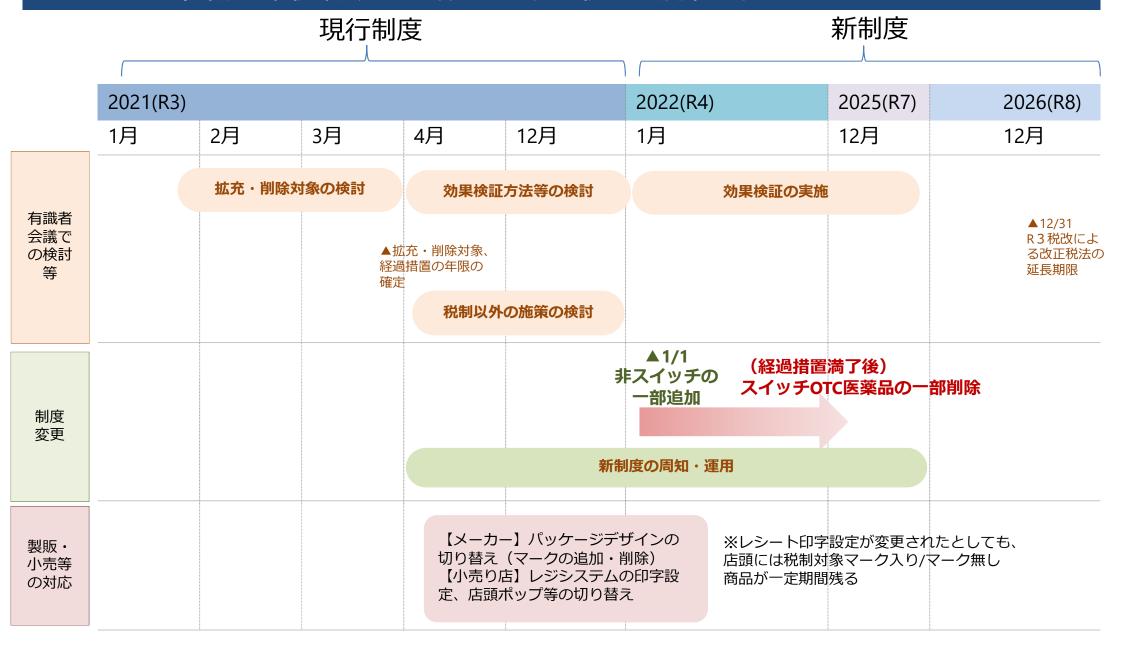
- 取組に関する書類の確定申告書への添付は不要とする。
- ・医薬品購入費は明細を添付(取組に関する事項を明細に記載)
- (注) 本制度の効果検証を行うため、適切な指標を設定した上で評価を行い、次の適用期限の到来時にその評価を踏まえて、制度の 見直し等を含め、必要な措置を講ずる。

除外及び拡充の議論対象として考えられる薬効

薬効番号	薬効分類名	対応する主な症状
264	集初万無石 	
207		7,5 - 5 (32,13) (33, 31,3 (- 1,1,12,13 ()
118	総合感冒剤	かぜの諸症状
114	解熱鎮痛消炎剤	発熱、痛み
224	鎮咳去たん剤	咳、たん、喘息
132	耳鼻科用剤	蓄膿症、アレルギー性鼻炎
441	抗ヒスタミン剤	かゆみ、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどアレルギー症状
222	鎮咳剤	咳
449	その他のアレルギー用薬	かゆみ、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどアレルギー症状等
131	眼科用剤	疲れ目、かゆみ、結膜充血、眼瞼炎
317	混合ビタミン剤(ビタミンA・D混合製剤を除く。)	眼精疲労、肩こり
265	寄生性皮ふ疾患用剤	水虫、たむし
235	下剤, 浣腸剤	便秘
237	複合胃腸剤	胃部不快感、胃もたれ、消化不良、食欲不振
279	その他の歯科口腔用薬	口内炎
233	健胃消化剤	胃部不快感、胃もたれ、消化不良、食欲不振
231	止しゃ剤,整腸剤	下痢
211	強心剤	動悸、息切れ、心臓病
313	ビタミンB剤(ビタミンB1剤を除く。)	肩こり、腰痛、手足のしびれ
312	ビタミンB1剤	ビタミンB1の欠乏
269	その他の外皮用薬	にきび
226	含嗽剤	口腔内・喉の殺菌、虫歯
234	制酸剤	胸やけ、むかつき、胃部不快感
319	その他のビタミン剤	腰痛、神経痛、しびれ
263	化膿性疾患用剤	細菌による皮膚感染症
232	消化性潰瘍用剤	胃痛、胃もたれ、胸やけ、むかつき等
239	その他の消化器官用薬	胃もたれ、吐き気、食欲不振等
218	高脂血症用剤	高コレステロール
799	他に分類されない治療を主目的としない医薬品	禁煙時のいらつき
625	抗ウイルス剤	口唇ヘルペス
124	鎮けい剤	胃痛、腹痛、胃痙攣
223	去たん剤	たん、たんの絡む咳
252	生殖器官用剤(性病予防剤を含む。)	膣カンジダ
259	その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬	女性の頻尿、残尿感
617	主としてカビに作用する抗生物質製剤	真菌性皮膚炎
	上記以外(スイッチOTCが存在しない薬効)	

(出典)令和2年7月薬事工業生産動態統計調査

令和3年税制改正を踏まえた改正税法の施行に向けたスケジュール



税制対象範囲についての検討項目及び論点・視点

検討項目(大綱の抜粋)

論点•視点

少子高齢化社会の中では限りある医療資源を有効活用するとともに、国民の健康づくりを促進することが重要であり、 国民が適切な健康管理の下、セルフメディケーション(自主服薬)に取り組む環境を整備することが、医療費の適正化にも 資する。

こうした観点から、セルフメディケーション税制について、対象をより効果的なものに重点化した上で、5年の延長を行う。 具体的には、いわゆるスイッチOTC成分の中でも効果の薄いものは対象外とする一方で、とりわけ効果があると考えられる薬効(3薬効程度)については、スイッチOTC成分以外の成分にも対象を拡充し、その具体的な内容等については専門的な知見も活用し決定する。

あわせて、手続きの簡素化を図るとともに、本制度の効果 検証を行うため、適切な指標を設定した上で評価を行い、次 の適用期限の到来時にその評価を踏まえて制度の見直し等 を含め、必要な措置を講ずる。

総論1 セルフメディケーションと税制の関係性

- 〇セルフメディケーションの意義をどのように考えるか
- 〇税制によりOTC医薬品の使用促進を図るべき領域(薬効)をどのように考えるか
 - ⇒ 医療費の適正化効果以外に必要な視点はないか

総論2 セルフメディケーション税制の効果

- 〇税制による医療費適正化効果の検証を行うための指標は、どのようなものが適切と考えるか
- ○対象医薬品の範囲の検討に当たっては、医療費適正化効果の検 証可能性も考慮すべきではないか

第二 令和3年度税制改正の具体的内容

- (1)本特例の対象となる医薬品の範囲について、次の見直しを行う。
- ① 所要の経過措置(5年未満の必要範囲内)を講じた上、対象となるスイッチOTC医薬品から、療養の給付に要する費用の適正化の効果が低いと認められるものを除外する。
- ② スイッチOTC医薬品と同種の効能又は効果を有する要 指導医薬品又は一般用医薬品(スイッチOTC医薬品を除 く。)で、療養の給付に要する費用の適正化の効果が著しく高 いと認められるもの(3薬効程度)を対象に加える。

各論1 対象から除外するもの・必要な経過措置期間

- 〇既に税制の対象になっているスイッチOTCのうち、どのような領域 (薬効)のものが医療費適正化の効果が低いと考えられるか
- 〇必要な経過措置の期間をどのように考えるか(次頁参照)

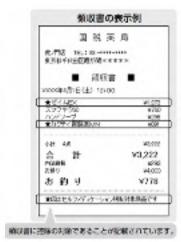
各論2 対象に加えるもの

- 〇スイッチOTC以外のOTCで、税制により使用促進を図るべき領域 (薬効)をどのように考えるか
- 〇どのような領域(薬効)であれば、税制対象範囲の拡大による医療 費適正化の効果が著しく高いと考えられるか

経過措置検討の必要性

- 現行の税制対象商品には、パッケージ上及びレシート上に税制対象マークが印字されており、確定申告に際して、消費者が対象商品を判別できるようになっている。
- 改正税法は令和4年1月1日から施行されるところ、 対象商品の追加及び削除について、施行日より対応 する必要がある。





メーカー・小売り店における具体的な対応例

【メーカー】パッケージデザインの切り替え(マークの追加・削除) 【小売り店】レジシステムの印字設定、店頭ポップ等の切り替え

- 新たな対象商品については、税制対象マークのシール貼り付け、レジでの声かけ等により一定程度、消費者に認知してもらうことが可能。
- 一方、今般対象外とする商品については、これまで対象商品として認知されてきているほか、マーク入りの商品が売り切れるまでは、対象商品として申告される可能性がある。確定申告において、対象商品でないのにもかかわらず誤って申告された場合は、修正申告を行う必要が生じてしまう。
- このため、今般対象外とする商品については、消費者への認知、商品入れ替えに要する期間(※)に鑑みて、 税制の対象から除外するまでに一定期間の経過措置を設ける必要。その期間についてどう考えるか。
 - (※) OTC医薬品の品質保証期間は3年程度であり、施行前に出荷されたマーク入り商品は、当該期間中は市場に 残っている可能性がある。

10

参考資料

スイッチOTC成分(1/3)

承認年	成分名	用法	OTC薬効群
1983	ソイステロール(大豆油不けん化物)	経口	血清高コレステロール改善薬
1905	ピコスルファートナトリウム	経口	寫下薬(便秘薬)
	エキサラミド	外用	水虫・たむし用薬
1985	ジメモルファンリン酸塩	経口	鎮咳去たん薬
1505	インドメタシン	外用	外用鎮痛消炎薬
	イブプロフェン(450mg/日)	経口	解熱鎮痛薬
1986	ポリエンホスファチジルコリン	経口	血清高コレステロール改善薬
	ポリエチレンスルホン酸ナトリウム	外用	鎮痛消炎薬
	ブチルスコポラミン臭化物	経口	胃腸鎮痛鎮痙薬
	ブロムヘキシン塩酸塩	経口	かぜ薬
1987	セトラキサート塩酸塩	経口	胃腸薬
	チメピジウム臭化物水和物	経口	胃腸鎮痛鎮痙薬
	シクロピロクスオラミン	外用	水虫・たむし用薬
	ミコナゾール硝酸塩	外用	水虫・たむし用薬
	イソチペンジル塩酸塩	口腔	歯痛・歯槽膿漏薬
1988	ゲファルナート	経口	胃腸薬
1500	エコナゾール硝酸塩	外用	水虫・たむし用薬
	カルボシステイン	—————————————————————————————————————	鎮咳去たん薬
1989	ヘプロニカート	経口	血行障害改善薬
1303	ロペラミド塩酸塩	—————————————————————————————————————	<u>止しゃ薬</u>
	ユビデカレノン	経口	強心薬
	ヒドロコルチゾン酪酸エステル	外用	外用湿疹・皮膚炎用薬
1990	メキタジン	経口	内服アレルギー用薬
	ビソキサチン酢酸エステル	経口	寫下薬(便秘薬)
	イブプロフェンピコノール	外用	にきび治療薬
	トルシクラート	外用	水虫・たむし用薬
1991	ウフェナマート	外用	外用湿疹・皮膚炎用薬
	エプラジノン塩酸塩	経口	鎮咳去たん薬
	チオコナゾール	外用	水虫・たむし用薬
	メコバラミン	経口	ビタミン主薬製剤
1992	プレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステル	外用	外用湿疹・皮膚炎用薬
	L-アスパラギン酸カルシウム	経口	カルシウム主薬製剤
	イブプロフェン	経口	かぜ薬 ※新効能医薬品
	スルコナゾール硝酸塩	外用	水虫・たむし用薬
1993	ビホナゾール	外用	水虫・たむし用薬
	メキタジン	経口	かぜ薬 ※新効能医薬品
	オキシコナゾール硝酸塩	外用	水虫・たむし用薬
1994	ピロキシカム	外用	外用鎮痛消炎薬
	ケトプロフェン	外用	外用鎮痛消炎薬
	オキセサゼイン	経口	胃腸薬
1995	トリメブチンマレイン酸塩	経口	胃腸薬の異質は必要して、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは
	フェルビナク(0.5%)	外用	外用鎮痛消炎薬 12
	ピレンゼピン塩酸塩水和物	経口	胃腸薬

スイッチOTC成分(2/3)

承認年	成分名	用法	OTC薬効群
	クロモグリク酸ナトリウム	点眼・点鼻	アレルギー用点眼薬・アレルギー性鼻炎用点鼻薬
1997	シメチジン	経口	胃腸薬
1997	ファモチジン	経口	胃腸薬
	ラニチジン塩酸塩	経口	胃腸薬
1998	ソファルコン	経口	胃腸薬
2000	テプレノン	経口	胃腸薬
2001	ニコチン	経口 (ガム)	禁煙補助薬
2002	アモロルフィン塩酸塩	外用	水虫・たむし用薬
	ブテナフィン塩酸塩	外用	水虫・たむし用薬
2002	ネチコナゾール塩酸塩	外用	水虫・たむし用薬
2002	テルビナフィン塩酸塩	外用	水虫・たむし用薬
	プラノプロフェン	点眼	点眼薬
	ロキサチジン酢酸エステル塩酸塩	経口	胃腸薬
2005	ニザチジン	経口	胃腸薬
	ケトチフェンフマル酸塩	点鼻	アレルギー性鼻炎用点鼻薬
	ラノコナゾール	外用	水虫・たむし用薬
	チキジウム臭化物	経口	胃腸鎮痛鎮痙薬
2006	アゼラスチン塩酸塩	経口	内服アレルギー用薬
	ケトチフェンフマル酸塩	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬 ※新投与経路医薬品
	トリアムシノロンアセトニド	外用	口内炎治療薬
	アシクロビル	外用	口唇ヘルペス再発治療薬
2007	ケトチフェンフマル酸塩	点眼	アレルギー用点眼薬 ※新投与経路医薬品
2007	アンブロキソール塩酸塩	経口	かぜ薬(去痰成分)
	フェルビナク(3.5%)	外用	外用鎮痛消炎薬 ※新用量医薬品
	フラボキサート塩酸塩	経口	頻尿・残尿感改善薬
	イソコナゾール硝酸塩	腟坐剤	腟カンジダ再発治療薬
2008	ニコチン	貼布	禁煙補助薬 ※新投与経路医薬品
	エメダスチンフマル酸塩	経口	内服アレルギー用薬
	ミコナゾール硝酸塩	腟坐剤	腟カンジダ再発治療薬 ※新投与経路医薬品
	ミコナゾール硝酸塩	外用	腟カンジダ再発治療薬 ※新効能医薬品
2000	イソコナゾール硝酸塩	外用	腟カンジダ再発治療薬 ※新効能医薬品
2009	ジクロフェナクナトリウム	外用	外用鎮痛消炎薬
	ビダラビン	外用	口唇/JI/n° ス再発治療薬 13

スイッチOTC成分(3/3)

承認年	成分名	用法	OTC薬効群		
	ロキソプロフェンナトリウム水和物	経口	解熱鎮痛薬		
	エピナスチン塩酸塩	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬		
2010	トロキシピド	経口	胃腸薬(粘膜修復)		
	オキシコナゾール硝酸塩		腟カンジダ再発治療薬 ※新投与経路医薬品		
	ベクロメタゾンプロピオン酸エステル	点鼻	アレルギー性鼻炎用点鼻薬		
	クロトリマゾール	腟坐剤	腟カンジダ再発治療薬 ※新投与経路医薬品		
	オキシメタゾリン塩酸塩	点鼻	鼻炎用点鼻薬		
2011	アシタザノラスト水和物	点眼	アレルギー用点眼薬		
	ペミロラストカリウム	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬		
	メキタジン	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬		
	フェキソフェナジン塩酸塩	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬		
	ネチコナゾール塩酸塩	外用	腟カンジダ再発治療薬 ※新投与経路医薬品		
2012	イコサペント酸エチル	経口	境界領域の中性脂肪値改善薬		
	セチリジン塩酸塩	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬		
	イブプロフェン(600mg/日)		解熱鎮痛薬 ※新用量医薬品		
	トリメブチンマレイン酸塩	経口	過敏性腸症候群再発症状改善薬 ※新効能医薬品		
2013	ペミロラストカリウム	点眼	アレルギー用点眼薬 ※新投与経路医薬品		
2013	トラニラスト	点眼	アレルギー用点眼薬		
	エバスチン	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬		
2014	アルミノプロフェン	経口	解熱鎮痛薬		
2015	フッ化ナトリウム	外用	歯科用剤(う蝕予防)		
2015	ロキソプロフェンナトリウム水和物	外用	消炎鎮痛薬 ※新投与経路医薬品		
	ロラタジン	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬		
2017	ベポタスチンベシル酸塩	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬		
2017	フェキソフェナジン塩酸塩(小児用)	経口	アレルギー性鼻炎用内服薬		
	クロトリマゾール	外用	腟カンジダ再発治療薬 ※新効能医薬品		
2018	フルニソリド	点鼻	鼻炎用点鼻薬		
2019	フルチカゾンプロピオン酸エステル	点鼻	鼻炎用点鼻薬		
2019	イソコナゾール硝酸塩	腟坐剤	腟カンジダ再発治療薬 ※新用法医薬品		
2020	精製ヒアルロン酸ナトリウム	点眼	点眼薬		
2020	ベタメタゾン吉草酸エステル	外用	外用湿疹・皮膚炎用薬 14		

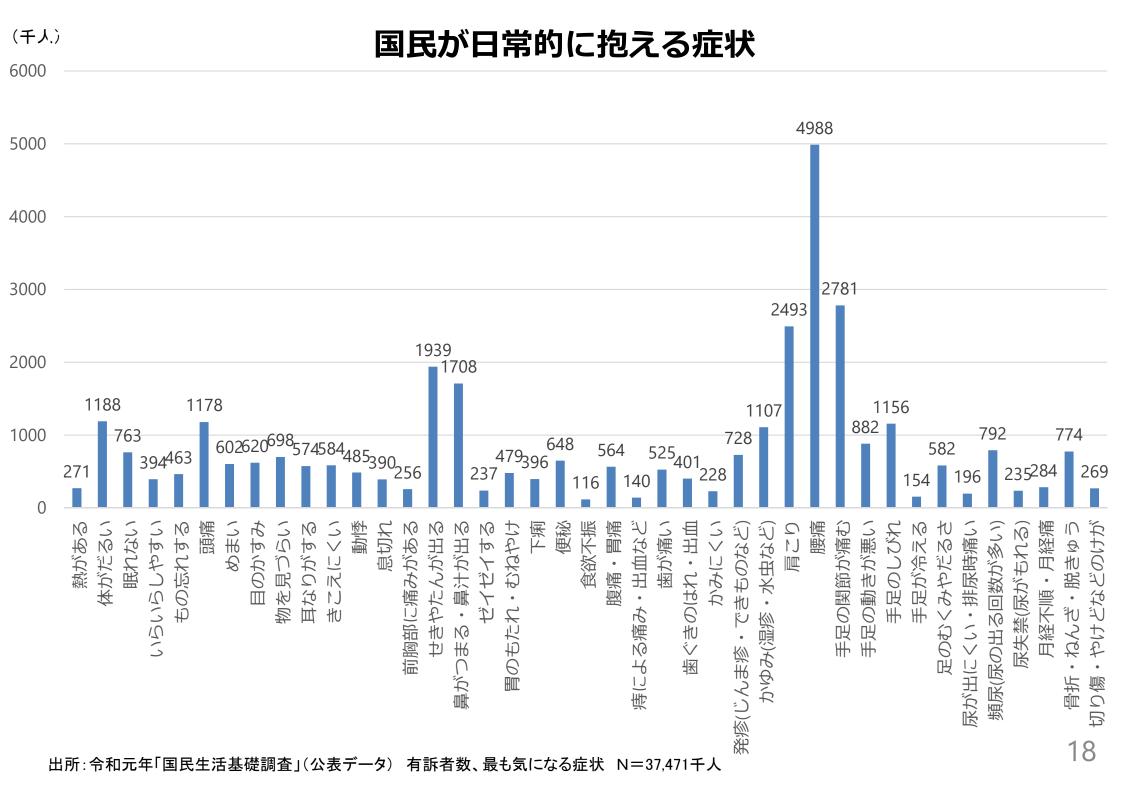
スイッチOTCと非スイッチOTCの年間出荷額

			2019年		
			ОТС	うちスイッチ	うち非スイッチ
			医薬品の出荷金額	OTC医薬品	OTC医薬品
薬効番号	薬効分類名	対応する主な症状	820,404,308	163,933,404	656,470,904
264	鎮痛,鎮痒,収斂,消炎剤	肩こり、腰痛、筋肉痛などの神経痛等	103,043,468	34,770,710	68,272,758
118	総合感冒剤	かぜの諸症状	84,135,660	38,448,130	45,687,530
114	解熱鎮痛消炎剤	発熱、痛み	56,293,610	37,386,329	18,907,281
224	鎮咳去たん剤	咳、たん、喘息	19,265,982	1,651,730	17,614,252
132	耳鼻科用剤	蓄膿症、アレルギー性鼻炎	21,593,523	4,440,716	17,152,807
441	抗ヒスタミン剤	かゆみ、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどアレルギー症状	1,684,280	477,019	1,207,261
222	鎮咳剤	咳	2,059,133	0	2,059,133
		かゆみ、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどアレルギー症状			
449	その他のアレルギー用薬	等	11,112,773	11,096,252	16,521
131	眼科用剤	疲れ目、かゆみ、結膜充血、眼瞼炎	72,855,618	3,941,040	68,914,578
317	混合ビタミン剤(ビタミンA・D混合製剤を除く。)	眼精疲労、肩こり	42,725,485	3,327,033	39,398,452
265	寄生性皮ふ疾患用剤	水虫、たむし	10,483,288	9,461,229	1,022,059
235	下剤,浣腸剤	便秘	23,890,901	94,087	23,796,814
237	複合胃腸剤	胃部不快感、胃もたれ、消化不良、食欲不振	29,801,321	956,641	28,844,680
279	その他の歯科口腔用薬	口内炎	12,317,893	595,437	11,722,456
233	健胃消化剤	胃部不快感、胃もたれ、消化不良、食欲不振	5,879,005	1,218,730	4,660,275
231	止しゃ剤,整腸剤	下痢	10,273,086	456,809	9,816,277
211	強心剤	動悸、息切れ、心臓病	10,624,875	55,216	10,569,659
313	ビタミンB剤(ビタミンB1剤を除く。)	肩こり、腰痛、手足のしびれ	13,617,811	103,094	13,514,717
312	ビタミンB1剤	ビタミンB1の欠乏	5,237,499	1,534,642	3,702,857
269	その他の外皮用薬	にきび	3,118,909	669,910	2,448,999
226	含嗽剤	口腔内・喉の殺菌、虫歯	2,652,681	0	2,652,681
234	制酸剤	胸やけ、むかつき、胃部不快感	3,833,016	2,327,728	1,505,288
319	その他のビタミン剤	腰痛、神経痛、しびれ	10,176,253	758,188	9,418,065
263	化膿性疾患用剤	細菌による皮膚感染症	11,479,360	4,668,088	6,811,272
232	消化性潰瘍用剤	胃痛、胃もたれ、胸やけ、むかつき等	669,137	597,834	71,303
239	その他の消化器官用薬	胃もたれ、吐き気、食欲不振等	244,378	166,368	78,010
218	高脂血症用剤	高コレステロール	954,695	168,750	785,945
799	他に分類されない治療を主目的としない医薬品	禁煙時のいらつき	3,779,914	3,582,736	197,178
625	抗ウイルス剤	口唇ヘルペス	425,903	425,903	0
124	鎮けい剤	胃痛、腹痛、胃痙攣	356,475	355,607	868
223	 去たん剤	たん、たんの絡む咳	48,601	48,601	0
252	生殖器官用剤(性病予防剤を含む。)	膣カンジダ	66,616	66,616	0
259	その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬	女性の頻尿、残尿感	342,704	82,231	260,473
617	主としてカビに作用する抗生物質製剤	真菌性皮膚炎	0	0	0
	上記以外(スイッチOTCが存在しない薬効)		245,360,455	0	245,360,455

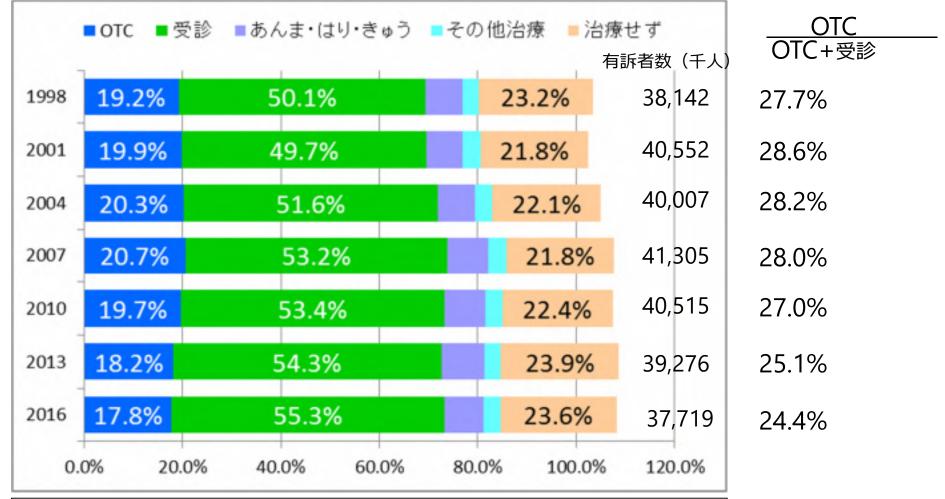
出所:薬事工業生産動態統計調査(2019年) 出荷金額がOとなっているものは、2019年において、メーカーからの出荷実績が報告されていないもの

非公表データ

非公表データ

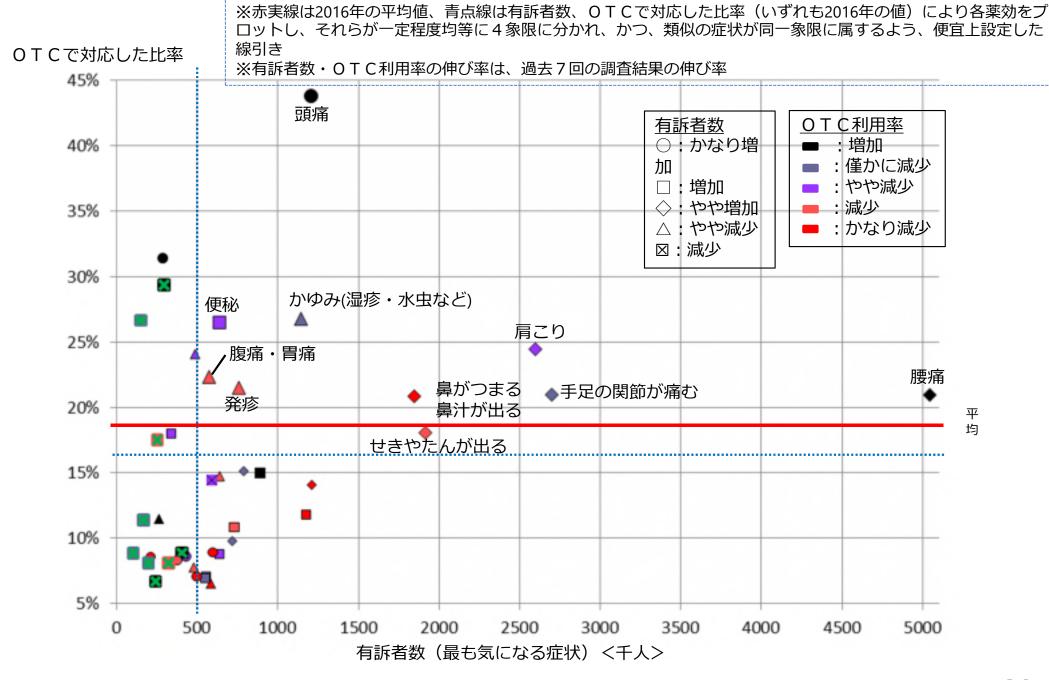


有訴者数,最も気になる症状(単回答)と対処行動(複数回答)

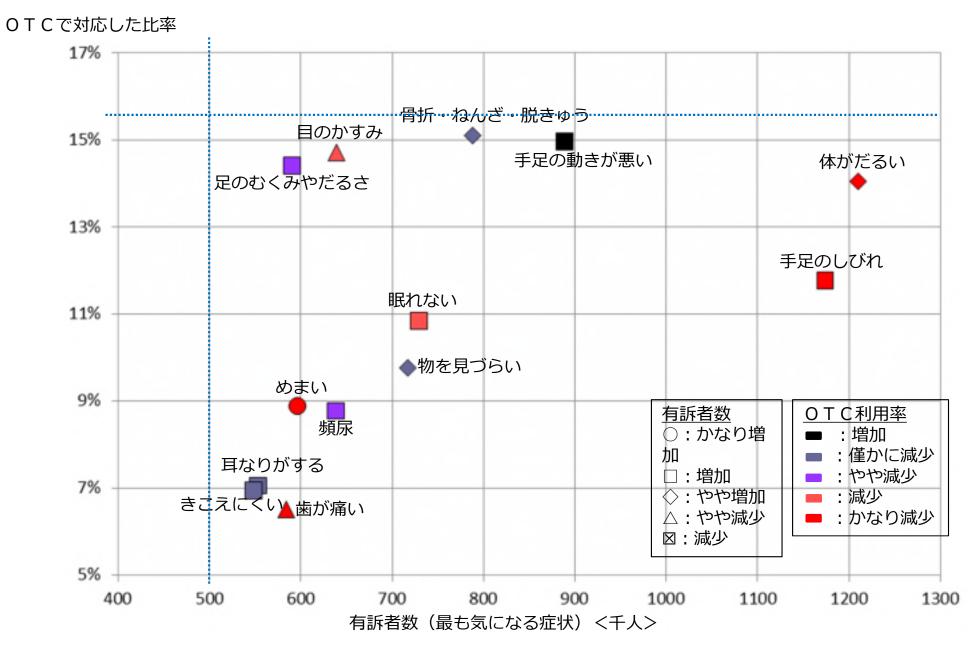


熱がある、体がだるい、眠れない、いらいらしやすい、もの忘れする、頭痛、めまい、目のかすみ、物を見づらい、耳なりがする、きこえにくい、動悸、息切れ、前胸部に痛みがある、せきやたんが出る、鼻がつまる・鼻汁が出る、ゼイゼイする、胃のもたれ・むねやけ、下痢、便秘、食欲不振、腹痛・胃痛、痔による痛み・出血など、歯が痛い、歯ぐきのはれ・出血、かみにくい、発疹(じんま疹・できものなど)、かゆみ(湿疹・水虫など、肩こり、腰痛、手足の関節が痛む、手足の動きが悪い、手足のしびれ、手足が冷える、足のむくみやだるさ、尿が出にくい・排尿時痛い、頻尿(尿の出る回数が多い)、尿失禁(尿がもれる)、月経不順・月経痛、骨折・ねんざ・脱きゅう、切り傷・やけどなどのけが (以上41症状)

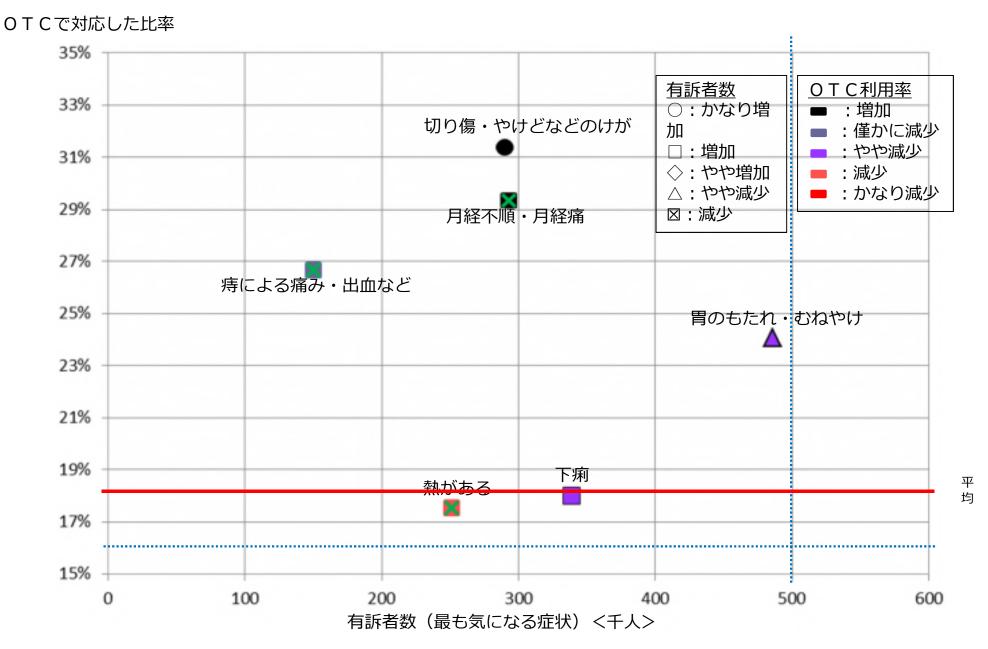
有訴者数,最も気になる症状(単回答)のOTCによる治療状況(1)全体



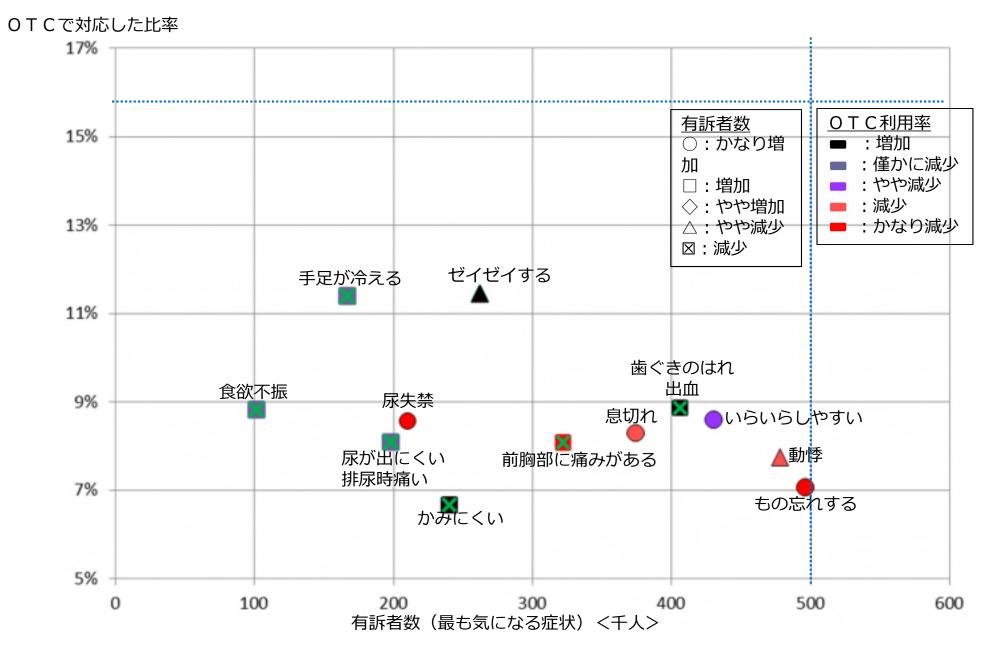
有訴者数,最も気になる症状(単回答)のOTCによる治療状況(2)右下(頻度は高いが、OTC利用率は低い)



有訴者数,最も気になる症状(単回答)のOTCによる治療状況(複数回答) (3)左上(頻度は低いが、OTC利用率は高い)



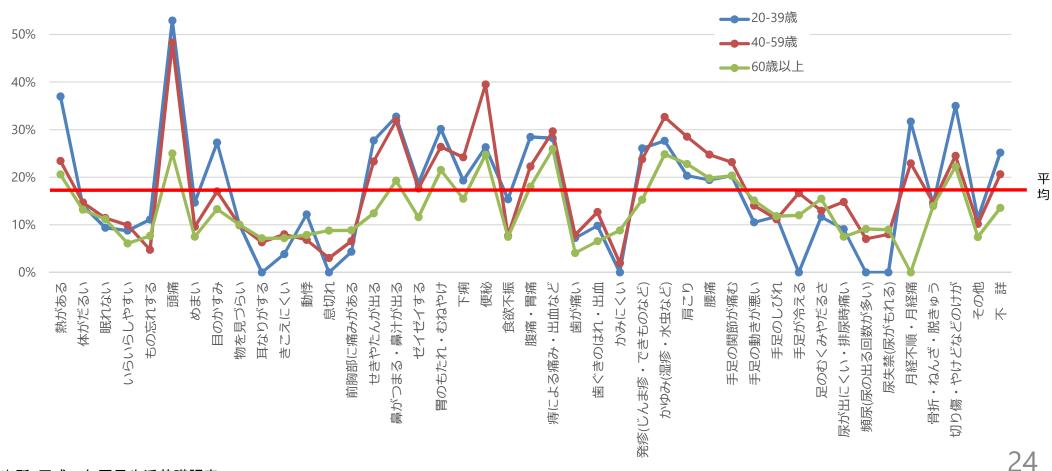
有訴者数,最も気になる症状(単回答)のOTCによる治療状況(複数回答) (4)左下(頻度は低く、OTC利用率も低い)



各主症状に対する国民の対応状況(年齢別) 【1/2】

半数以上の症状において、60歳以上の「売薬を飲んでいる」と回答した割合が他の年齢層と比較して最も 低くなっている

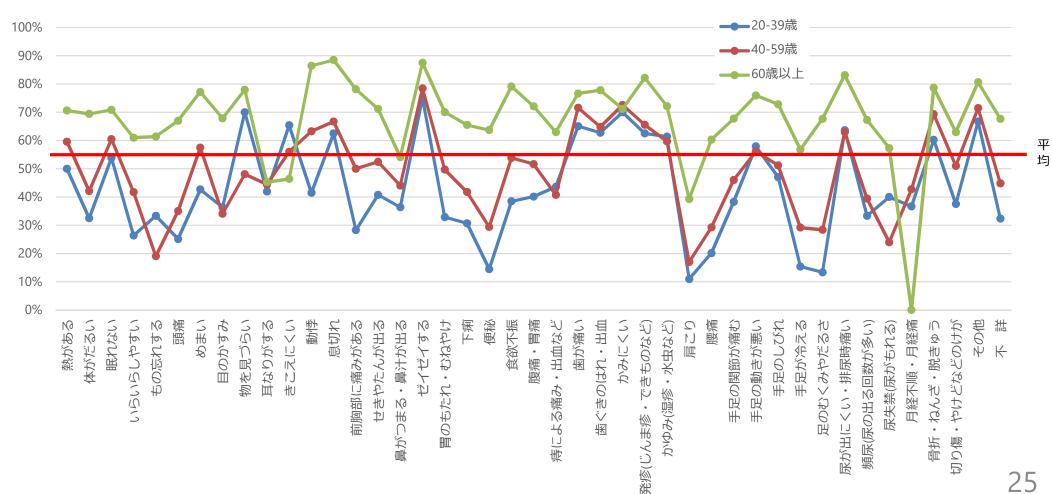




各主症状に対する国民の対応状況(年齢別) 【2/2】

■ ほとんど症状において年齢層が上がるにつれて「病院・診療所に通っている」と回答した割合が増加している

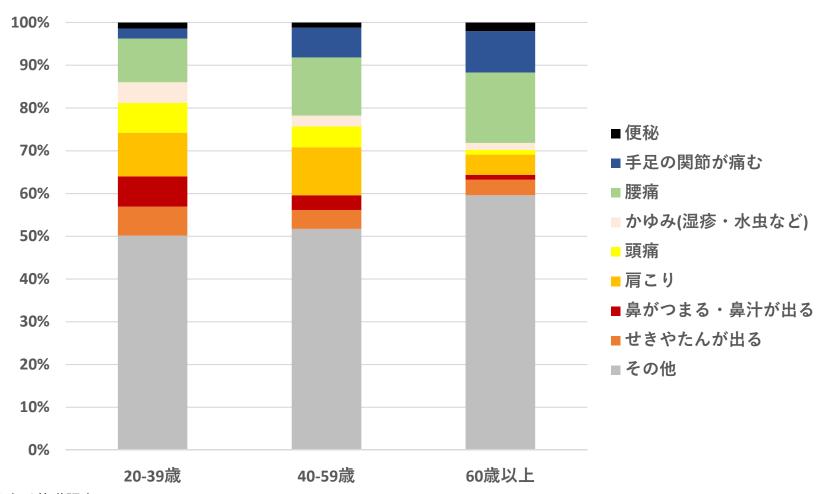
各主症状に対して「病院・診療所に通っている」と回答した割合



各年代が抱える各主症状の分布

- 「手足の関節が痛む」「腰痛」の回答の割合は60歳以上において最も大きくなっている
- 一方で「かゆみ(湿疹・水虫)」「頭痛」「肩こり」「鼻がつまる・鼻汁が出る」「せきやたんが出る」 の回答の割合は若い世代ほど大きくなっている

各主症状の回答数の分布

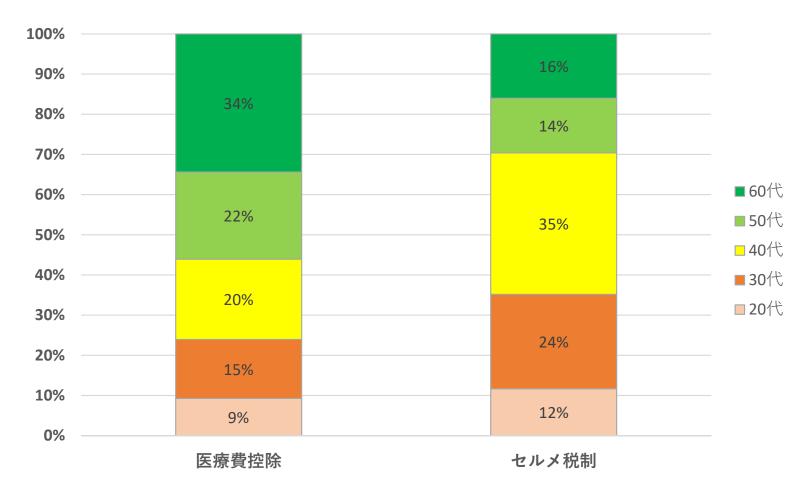


26

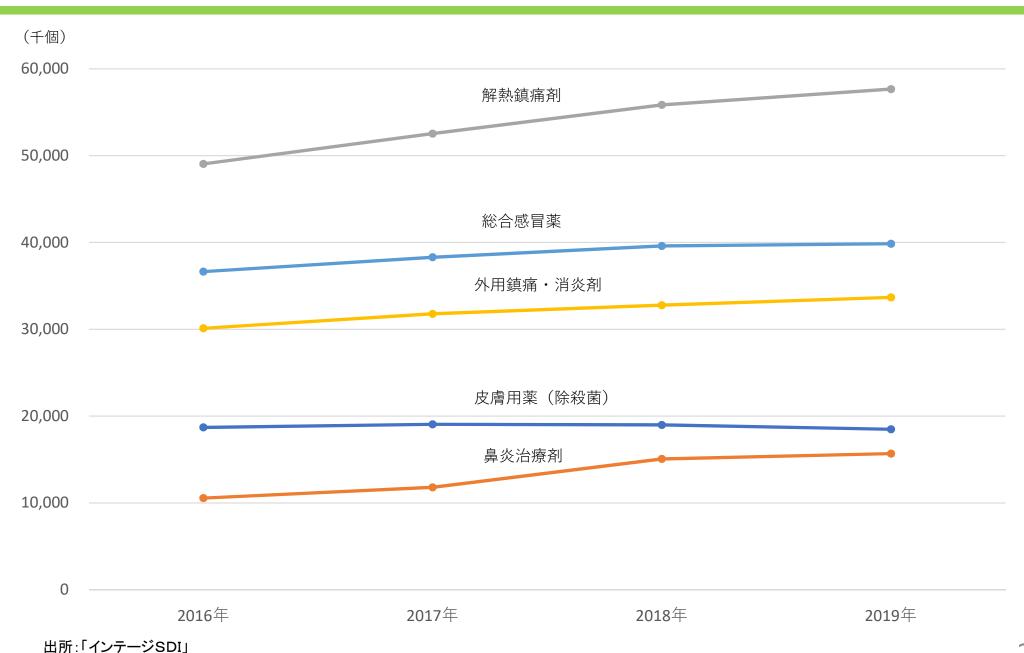
各制度の利用群の年齢分布

■ 医療費控除の利用群のボリュームゾーンが50代~60代に対して、セルメ税制のボリュームゾーンは30代~40代となっている

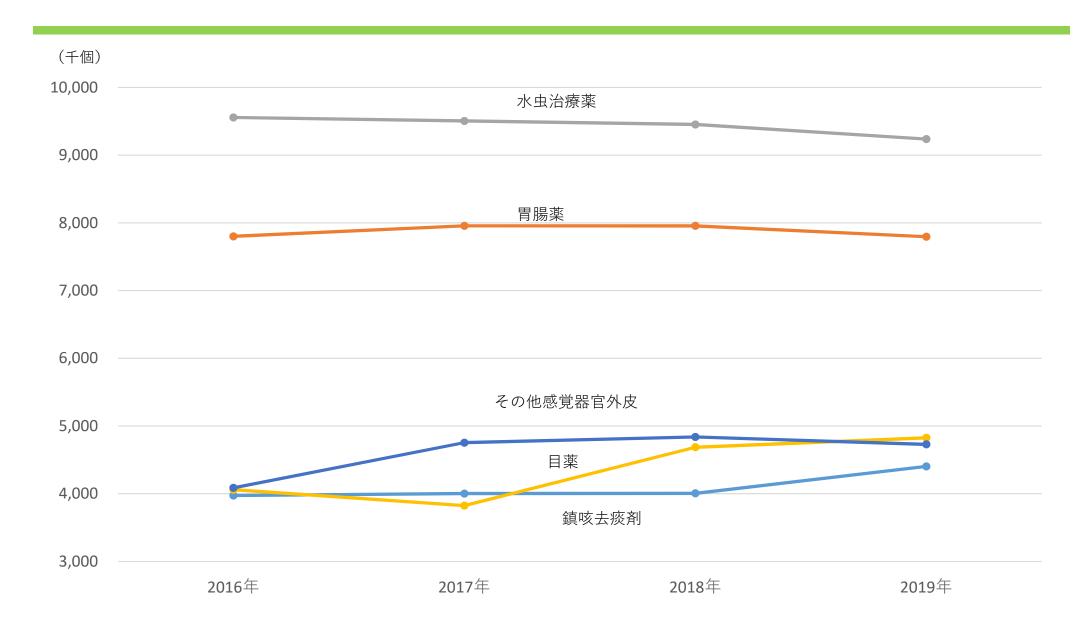
各制度の利用群の年齢分布



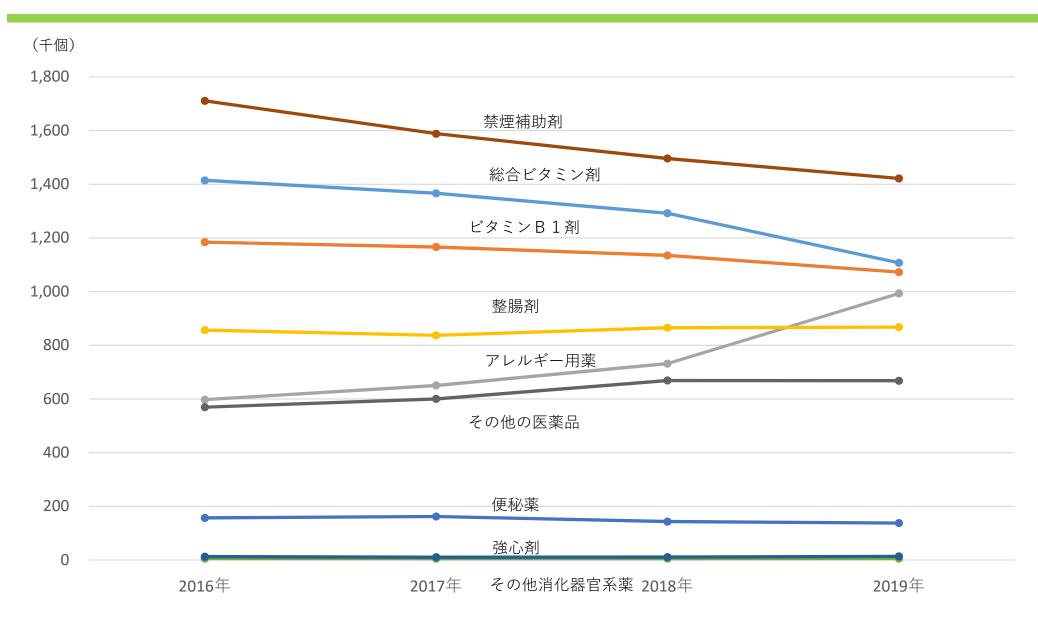
スイッチOTC(税制対象製品)の販売量の推移(薬効別上位)



スイッチOTC(税制対象製品)の販売量の推移(薬効別中位)

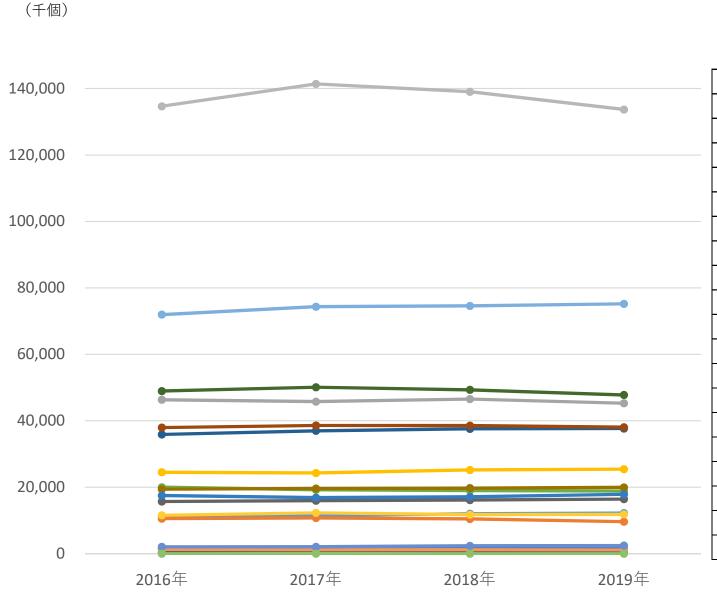


スイッチOTC(税制対象製品)の販売量の推移(薬効別下位)



出所:「インテージSDI」

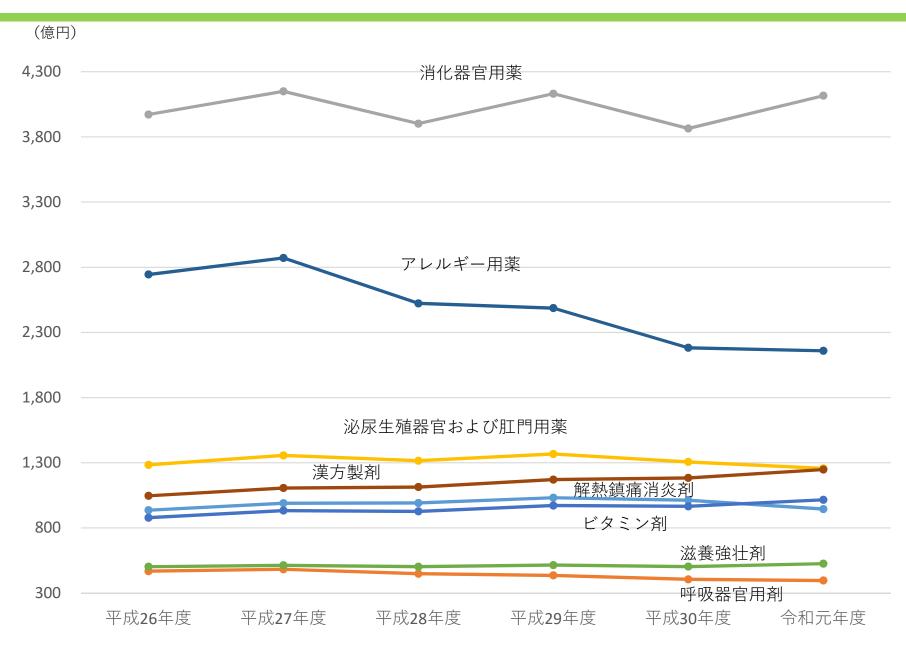
非スイッチOTC(税制非対象製品)の販売量の推移



分類名	2019年の個数(千個)		
目薬	133,706		
皮膚用薬(除殺菌)	75,208		
外用鎮痛·消炎剤	47,760		
総合感冒薬	45,263		
胃腸薬	38,054		
鎮咳去痰剤	37,654		
鼻炎治療剤	25,419		
便秘薬	19,954		
解熱鎮痛剤	18,818		
その他の医薬品	17,855		
整腸薬	16,425		
総合ビタミン剤	12,234		
その他感覚器官外皮	11,830		
ビタミンB1剤	9,630		
強心剤	2,450		
アレルギー用薬	1,479		
水虫治療薬	1,103		
その他消化器官系薬	322		
禁煙補助剤	0		

出所:「インテージSDI」

薬効別調剤医療費の推移(実額)



出所:最近の調剤医療費の動向 ※OTCの存在する薬効分類に限定している (かつ内服薬のみ)

スイッチOTCと非スイッチOTCの価格差

■ OTC製品1個あたりの価格(円)【2020年】 各薬効の販売金額合計を販売量合計で除して得た販売単価(平均)

	スイッチOTC	非スイッチOTC
合計	1,234	994
総合ビタミン剤	3,321	1,599
ビタミン B1剤	3,019	3,228
総合感冒薬	1,466	965
鼻炎治療剤	1,969	923
アレルギー用薬	1,064	1,363
解熱鎮痛剤	827	843
鎮咳去痰剤	1,187	724
胃腸薬	1,161	1,014
整腸薬	990	1,097
便秘薬	884	1,239
その他消化器官系薬	1,723	1,235
外用鎮痛•消炎剤	1,302	744
皮膚用薬(除殺菌)	1,079	830
水虫治療薬	1,398	1,109
目薬	1,342	571
その他感覚器官外皮	1,020	775
強心剤	4,695	3,387
禁煙補助剤	3,352	_
その他の医薬品	1,785	600

医療用医薬品を処方された場合とOTC薬を購入した場合の比較

	医療用医薬品を処方された場合				OTC薬を購入 した場合	
	薬剤費※1	その他の 医療費 ^{※2}	医療費の合計	患者自己負担額 (3割負担)	保険者の負担額	OTC価格 ^{※3}
花粉症薬 (フェキソフェナジン 60mg 14日分)	420 ~ 1,400	5,670	6,090 ~ 7,070	1,830 ~ 2,142	4,270 ~ 4,998	565 ~ 2,075
漢方薬(感冒) (葛根湯(顆粒) ^{※4} 4日分)	160 ~ 240	5,670	5,830 ~ 5,910	1,755 ~ 1,776	4,095 ~ 4,144	657 ~ 1,980
湿布薬 (ロキソプロフェン50mg 14枚)	170 ~ 290	5,220	5,390 ~ 5,510	1,617 ~ 1,653	3,773 ~ 3,857	1,730 ~ 1,737
保湿剤 (ヘパリン類似物質0.3% 50g(1本))	220 ~ 1,080	5,220	5,440 ~ 6,300	1,632 ~ 1,890	3,808 ~ 4,410	1,134 ~ 2,494

保険者がヘルスケアポイント(例えば1,000円分)を付与する場合、その分負担は減少する。

- ※1 複数銘柄がある場合は最も薬価の安いものと最も高いものを記載(薬価は令和2年4月時点のもの)。薬剤費は診療報酬点数として算定した場合の 費用を記載。
- ※2 初診料(288点)、処方箋料(68点)、調剤基本料(42点)、薬剤服用歴管理指導料(57点)、調剤料(処方日数に対応した点数)、後発医薬品調剤体制加算2(22点)を算定したケースで算出。
- ※3 OTC薬は購入先やメーカーの違い(ブランド品、それ以外)によって価格は大きく異なる。確認できた範囲における最安値からメーカー希望小売価格までの範囲を記載。
- ※4 葛根湯(顆粒)の場合、OTC薬は医療用医薬品に比べて、1/4~1/3程度成分の含量が少ない場合がある。

OTC医薬品の潜在的医療費削減効果

2021.2.3

五十嵐中 横浜市立大学医学群健康社会医学ユニット 東京大学大学院薬学系研究科

研究の概要

研究1	OTC置き換えの現状は? (薬剤ごとの医療用・OTCの数量比)
研究2	医療機関受診は本当に「安上がり?」 (医療機関受診 vs OTCの費用比較)
研究 3	OTC置き換えによる潜在的な医療費削減幅は? (OTC置き換え可能領域での削減額推計)

研究の概要

研究1	OTC置き換えの現状は? (薬剤ごとの医療用・OTCの数量比)
研究2	医療機関受診は本当に「安上がり?」 (医療機関受診 vs OTCの費用比較)
研究3	OTC置き換えによる潜在的な医療費削減幅は? (OTC置き換え可能領域での削減額推計)

OTC置き換えの現状

- ・すでにOTCが導入済みの代表的な薬効群について、 医療用とOTCの販売数量を比較
- OTCが使用可能な効能のみに絞り込んだ比較を実施
- 各領域で、OTCがない成分は除外

ロキソプロフェン	腰痛・関節痛・神経痛・筋肉痛・歯痛・頭痛・生理痛・外傷痛・発熱など
抗アレルギー薬	鼻炎など
外皮用抗真菌薬	
H2ブロッカー	逆流性食道炎・胃食道逆流症・胃炎
ヘルペスウイルス薬	
膣カンジタ症薬	

■ ロキソプロフェンナトリウム

(医療用の1日量で比較)



疾患		相当するICD10	標準病名
腰痛	M545	下背部痛	腰痛症
関節痛	M531	頚肩腕症候群	
同ごり痛	M542	頚部痛	
月にが用	M750	癒着性肩関節包炎	肩関節周囲炎
神経痛	M792	神経痛及ぶ神経炎、詳細不明	
筋肉痛	M791	筋(肉)痛	
耳痛	H920	耳痛	
歯痛	K049	歯髄及び根尖周囲組織のその他及び詳細不明の疾患	神経痛性歯痛、放散性歯痛
	K088	歯及びの支持組織のその他の明示された障害	歯痛
頭痛	R51	頭痛	
立兵 7 用	G43	片頭痛	
月経痛(生理痛)	N946	月経困難症、詳細不明	月経痛
	S40-D69	肩及び上腕、肘および前腕、手首および手の損傷	
打撲痛、骨折痛、ねん挫痛、	S80-S89	膝および下腿の損傷	
外傷痛の鎮痛	T10-11	上肢の骨折、その他の損傷、部位不明	
	T12-13	下肢の骨折、その他の損傷、部位不明	
抜歯後の疼痛	T888	外科的および内科的ケアのその他の明示された合併症、その他に分類されないもの	抜歯後疼痛
咽頭痛、悪寒・発熱時の解熱	J00-J06	急性上気道感染症	

研究の概要

研究1	OTC置き換えの現状は? (薬剤ごとの医療用・OTCの数量比)
研究2	医療機関受診は本当に「安上がり?」 (医療機関受診 vs OTCの費用比較)
研究3	OTC置き換えによる潜在的な医療費削減幅は? (OTC置き換え可能領域での削減額推計)

「医療機関受診」と「OTC」での 費用の比較(方法)

医療機関受診時の総費用(保険者負担額含む)と 患者自己負担額を、OTCの金額と比較

受診時

薬剤費+関連費用* (レセプト)

OTC

OTC**の** 1日あたり価格 (POSデータ)

X

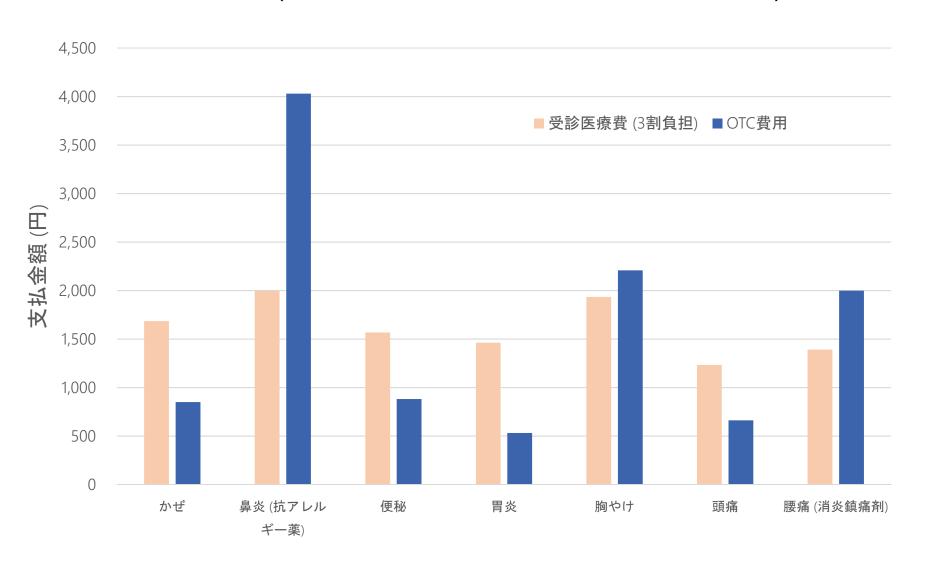
薬剤の 平均処方日数 (レセプト)

*関連費用: 初診再診料・医学管理料など・調剤料など

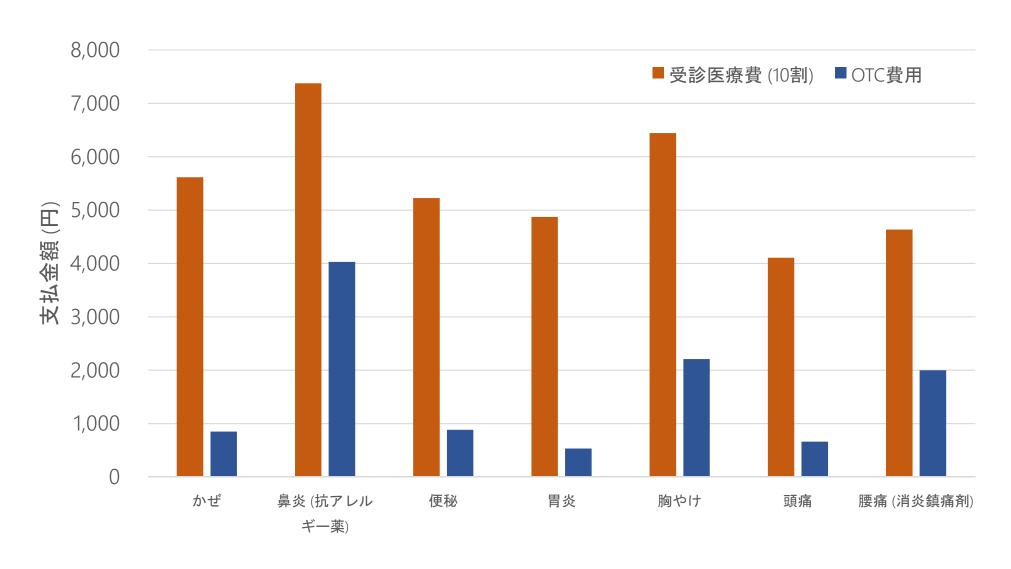
結果の概要

	レセ	全	項目		初再診+医学管理	初再診+医学管理等+投薬+調剤+薬剤		平均日数	ОТСЬ	ップ100	OTC金額		
	件数	金額(円)	金額/件	3割負担	金額(円)	金額/件	3割負担	平均枚数	薬効	金額/日	(円)		
かぜ (全薬剤)	5,379	33,152,340	6,163	1,849	30,199,740	5,614	1,684	4.889	かぜ薬	173.570	849		
鼻炎① (全薬剤)	77,598	667,322,650	8,600	2,580	572,286,677	7,375	2,213	28.200	抗ア薬	140.465	3,961		
鼻炎② (抗ア薬)	37,709	292,673,860	7,761	2,328	250,699,601	6,648	1,994	28.686	抗ア薬	140.465	4,029		
便秘 (全薬剤)	4,134	24,054,390	5,819	1,746	21,592,212	5,223	1,567	32.168	便秘薬	27.390	881		
胃炎 (全薬剤)	635	3,648,900	5,746	1,724	3,092,507	4,870	1,461	7.062	胃腸薬	75.208	531		
胸やけ (全薬剤)	1,402	11,153,680	7,956	2,387	9,031,581	6,442	1,933	29.344	胃腸薬	75.208	2,207		
頭痛 (全薬剤)	1,495	7,576,520	5,068	1,520	6,138,331	4,106	1,232	6.153	解熱鎮痛	107.422	661		
腰痛① (消炎鎮痛)	118	661,040	5,602	1,681	495,376	4,198	1,259	9.933	解熱鎮痛	107.422	1,067		
腰痛② (外用消炎)	593	4,319,520	7,284	2,185	2,633,273	4,441	1,332	81.430	外用消炎 金額/枚	15.612	1,271		
腰痛③	833	6,069,780	7,287	2,186	3,859,760	4.624	2.050.760 4.624	4.624 4.200	1 200	10.110	解熱鎮痛	107.422	1,998
(2+3)	000	0,009,760	7,207	2,100		5,055,700	3,039,700	4,634 1,390		58.396	外用消炎	15.612	1,990
腰痛④	2,412	18,810,190	7,799	2,340	11 500 907	4 900 1 443	1 ///2	11.833	解熱鎮痛	107.422	1,588		
(全薬剤)	2,412	10,010,190	7,733	Z,340	11,599,807	4,809)9 1,443	20.316	外用消炎	15.612	1,300		

推計結果 (3割負担の医療費とOTC費用の比較)



国の負担分も含めるとどうなる?



研究の概要

研究1	OTC置き換えの現状は? (薬剤ごとの医療用・OTCの数量比)
研究2	医療機関受診は本当に「安上がり?」 (医療機関受診 vs OTCの費用比較)
研究 3	OTC置き換えによる潜在的な医療費削減幅は? (OTC置き換え可能領域での削減額推計)

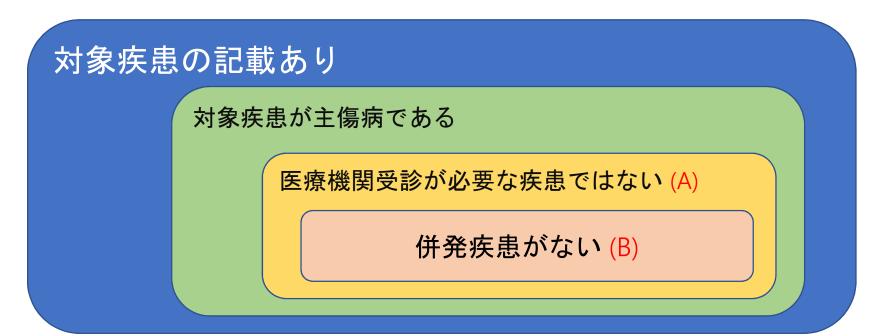
OTCへの置き換えによる医療費削減効果は? (目的)

- ・現状の保険診療医療費のうち、 OTCで置き換え可能な部分の金額を 疾患領域ごとに推計
- ・既存領域 (6疾患)と新規領域 (5疾患)で推計

既存領域 (すでにOTC使用可能)	新規領域 (将来的なOTC導入可能性)
かぜ症候群	腰痛・肩痛への筋弛緩薬
頭痛	過敏性腸症候群 (IBS)
腰痛・肩痛	高血圧
便秘	偏頭痛
胸やけ・胃痛・もたれむかつき	胸やけなどへのPPI
鼻炎	

OTCへの置き換えによる医療費削減効果は? (方法)

・ 商用レセプトデータ (JAMMNETデータ)を 用いて推計



潜在的削減医療費=

「OTCで対応可能な状態 (A) **の人数**」×「併発疾患なしの人 (B) **の医療費**」

OTCへの置き換えによる医療費削減効果は? (結果の概要)

既存領域						新規	領域	
疾患	人数 (A,万人)	医療費 (B, 円)	総額 (億円)		疾患	人数 (A,万人)	医療費 (B, 円)	総額 (億円)
かぜ症候群	560.0	7,200	403.2		腰痛・肩痛 の筋弛緩薬	13.0	10,486	13.6
頭痛	126.7	5,300	67.2		過敏性 腸症候群	16.3	7,617	12.4
腰痛・肩痛	92.0	8,830	81.3		高血圧	985.6	8,085	796.9
便秘	234.5	5,749	134.8		片頭痛	49.3	10,655	52.5
胸やけなど	287.8	7,457	214.6		胸やけなど のPPI	10.3	8,745	9.0
鼻炎	1668.7	8,561	1,428.7					
合計			2,329.7					884.3

既存領域2,330億円・新規領域880億円、合計3,210億円

既存領域

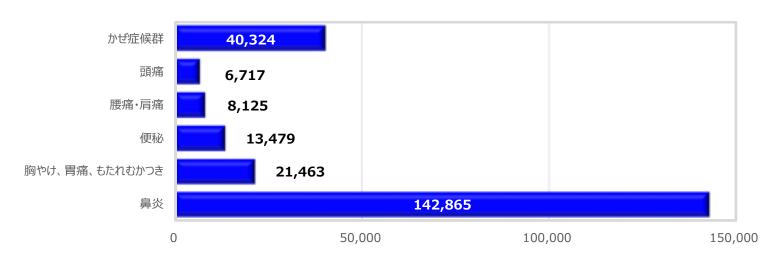
OTC対象レセプト件数(単位:1,000件)



併発疾患なし1件あたり金額(単位:円)



OTC対応可能金額(単位:100万円)



既存領域

かぜ症候群

J00-J06 急性上気道感染症					
300 急性鼻咽頭炎 [かぜ] <感冒>	J02.9 急性咽頭炎,詳細 ⁷	下明			
J01 急性副鼻腔炎	アンギナ	感染性咽頭炎			
J02 急性咽頭炎	カタル性咽頭炎	急性咽頭炎			
J02.0 連鎖球菌による咽頭炎	咽頭炎	急性化膿性咽頭炎			
J02.8 その他の明示された病原体による急性咽頭炎	咽頭痛	上咽頭炎			
ぶどう球菌性咽頭炎	下咽頭炎	潰瘍性咽頭炎			
ウイルス性咽頭炎	壊疽性咽頭炎	淋菌性咽頭炎			
エンテロウイルス性リンパ結節性咽頭炎	J03 急性扁桃炎				
コクサッキーウイルス咽頭炎	J04 急性喉頭炎及び気管	炎			
ヘルペスウイルス性咽頭炎	J05 急性閉塞性喉頭炎 [·	クループ〕及び喉頭蓋炎			
咽頭チフス	J06 多部位及び部位不明	の急性上気道感染症			
偽膜性咽頭炎	J06.0 急性喉頭咽頭炎				
水疱性咽頭炎	J06.8 多部位のその他の急	性上気道感染症			
肺炎球菌性咽頭炎	J06.9 急性上気道感染症,	詳細不明			
膜性咽頭炎	急性上気道炎				
アデノウイルス咽頭炎	連鎖球菌性上気道感染				
インフルエンザ菌性咽頭炎					

対象疾患

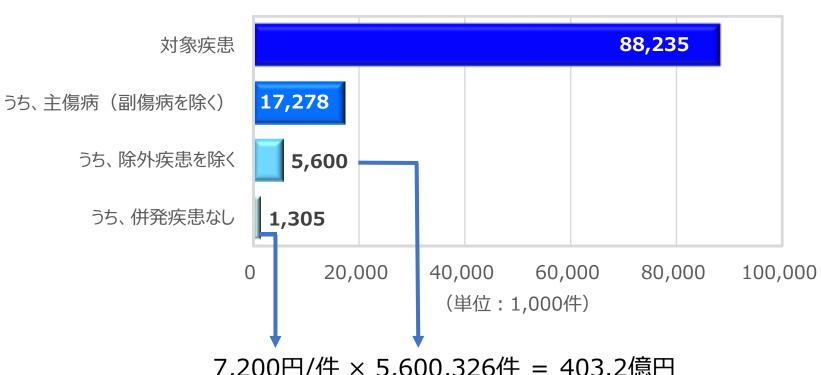
対象外疾患

かぜ症候群

除外する疾患(過去5年以内に下記の疾患がある場合は対象から除外)					
A00-A09 腸管感染症	I33 急性及び亜急性心内膜炎				
A15-A19 結核	J12-18 肺炎				
A30-A49 その他の細菌性疾患	J44 その他の慢性閉塞性肺疾患				
A90-A99 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱	J45 喘息				
B05 麻疹	J46 喘息発作重積状態				
B15-B19 ウイルス性肝炎	J84 その他の間質性肺疾患				
B20-B24 ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病	K52 その他の非感染性胃腸炎及び非感染性大腸炎				
B50-B64 原虫疾患	K80 胆石症				
C30-C39 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物 <腫瘍>	L27 摂取物質による皮膚炎				
D65-D69 凝固障害, 紫斑病及びその他の出血性病態	M06.1 成人発症スチル < Still > 病				
D73 脾疾患	M10 痛風				
D86 サルコイドーシス	M30-M36 全身性結合組織障害				
E79 プリン及びピリミジン代謝障害	N39 尿路系のその他の障害				
G00-G09 中枢神経系の炎症性疾患	R50.2 薬剤性の発熱				
H44 眼球の障害	Z96 その他の機能性の挿入物の存在				
H65-H75 中耳及び乳様突起の疾患					

かぜ症候群

かぜ症候群のレセプト件数



7,200円/件 × 5,600,326件 = 403.2億円

鼻炎

対象疾患

J30 血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎 <鼻アレルギー>

J30.0 血管運動性鼻炎

J30.1 花粉によるアレルギー性鼻炎 <鼻アレルギー>

J30.2 その他の季節性アレルギー性鼻炎 <鼻アレルギー>

J30.3 その他のアレルギー性鼻炎 <鼻アレルギー>

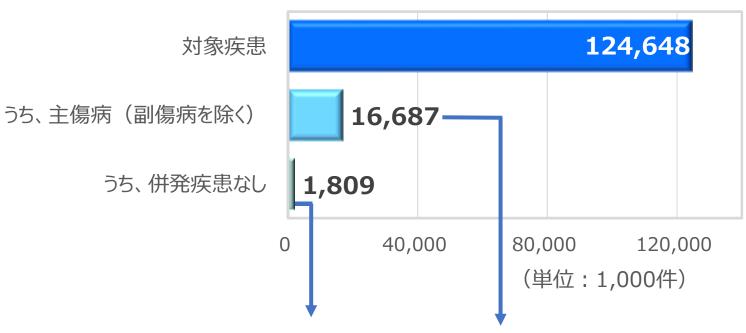
J30.4 アレルギー性鼻炎 <鼻アレルギー> , 詳細不明

対象疾患

対象外疾患

鼻炎

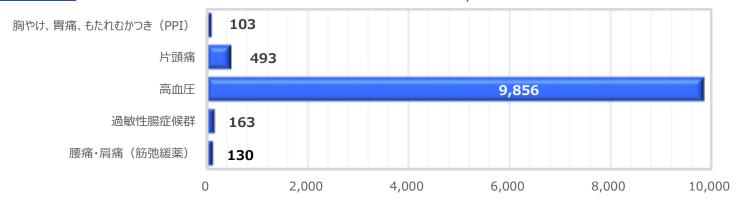
鼻炎のレセプト件数



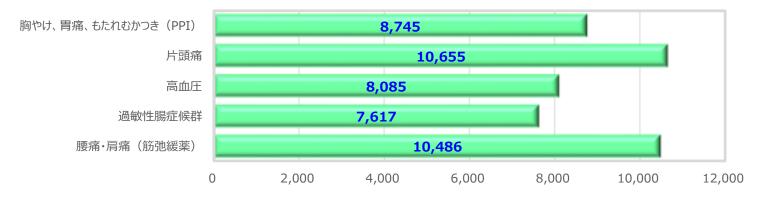
8,561円/件×16,687,406件 = 1,428.7億円

新規領域

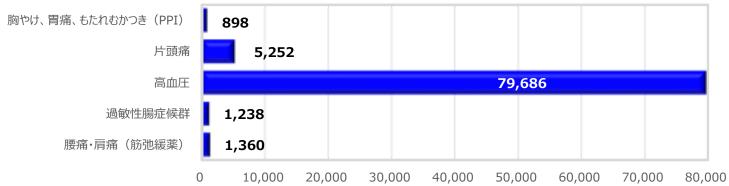
OTC対象レセプト件数(単位:1,000件)



併発疾患なし1件あたり金額(単位:円)







プロトンポンプ阻害薬

対象疾患					
K21 胃食道逆流症	K29 胃炎及び十二指腸	}			
K21.0 食道炎を伴う胃食道逆流症	K29.0 急性出血性胃炎	K29.7胃炎,詳細不明			
逆流性食道炎	K29.1 その他の急性胃炎	胃炎			
難治性逆流性食道炎	K29.2 アルコール性胃炎	術後残胃胃炎			
維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	K29.3 慢性表層性胃炎	K29.8 十二指腸炎			
術後逆流性食道炎	K29.4 慢性萎縮性胃炎	K29.9 胃十二指腸炎,詳細不明			
術後難治性逆流性食道炎	K29.5 慢性胃炎,詳細不明				
維持療法の必要な術後難治性逆流性食道炎	K29.6 その他の胃炎				
K21.9 食道炎を伴わない胃食道逆流症					
除外する疾患(過去5年以内に下記の疾患がある場合は対象から除外)					
I20-I25 虚血性心疾患	K27 部位不明の消化性潰瘍				
I26-I28 肺性心疾患及び肺循環疾患	K28 胃空腸潰瘍				
I30-I52 その他の型の心疾患	K40-K46 ヘルニア				
I71.3 腹部大動脈瘤,破裂性	K70-K77 肝疾患				
I71.4 腹部大動脈瘤, 破裂の記載がないもの	K85 急性膵炎				
I71.5 胸腹部大動脈瘤,破裂性	K86 その他の膵疾患				
I71.6 胸腹部大動脈瘤, 破裂の記載がないもの	N20-N23 尿路結石症				
K22.2 食道閉塞	N70-N77 女性骨盤臓器の炎	症性疾患			
K25 胃潰瘍	N80-N98 女性生殖器の非炎	症性障害			
K26 十二指腸潰瘍					
	対象薬効				
A02B2 プロトンポンプ阻害剤(初診のみで再診がない)					

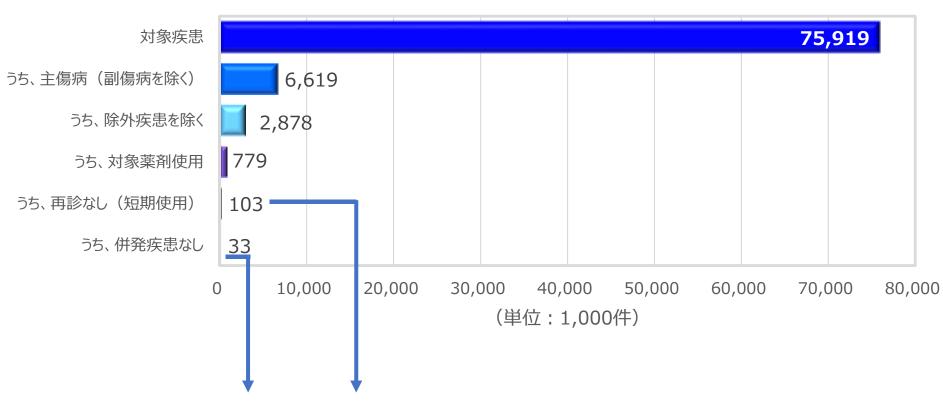
対象疾患

対象外疾患

新規領域

プロトンポンプ阻害薬

胸やけ、胃痛、もたれむかつき(PPI)のレセプト件数



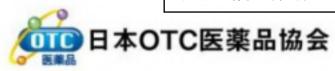
8,745円/件×102,717件 = 9.0億円

研究の限界

- ・レセプトの情報のみからの置き換え可能性判定
- 置き換えのインパクトは金銭的な部分のみ
 - 医療の質に関する検討は実施していない
 - ・ 質評価を加えた上での実態調査が重要?

まとめと今後の課題

- ・OTCの置き換えは十分に進んでいない領域もある。
- 総額ベースで比較した場合、患者負担のみを見ても「医療機関受診」は必ずしも安上がりにはならない。
- 潜在的なOTCの削減規模は3,200億円
- ・単に金銭でなく、医療の質評価も含めた議論が 今後は必要



第1回 セルフメディケーション推進に関する有識者検討会

2021年2月3日開催

1



総論1 セルフメディケーションと税制の関係性

- ① セルフメディケーションの意義をどのように考えるか
- ② 税制によりOTC医薬品の使用促進を図るべき領域(薬効)をどのように考えるか
 - ⇒ 医療費の適正化効果以外に必要な視点はないか

総論 2 セルフメディケーション税制の効果

- ① 税制による医療費適正化効果の検証を行うための指標は、どのようなものが適切と考えるか
- ② 対象医薬品の範囲の検討に当たっては、医療費適正化効果の検証可能性も考慮すべきではないか



各論1 対象から除外するもの・必要な経過措置期間

- ① 既に税制の対象になっているスイッチOTCのうち、どのような領域(薬効)のものが医療費適正化の効果が低いと考えられるか
- ② 必要な経過措置の期間をどのように考えるか

各論 2 対象に加えるもの

- ① スイッチOTC以外のOTCで、税制により使用促進を図るべき領域 (薬効)をどのように考えるか
- ② どのような領域(薬効)であれば、税制対象範囲の拡大による医療費適正化の効果が著しく高いと考えられるか



論点に対する当協会の考え



セルフメディケーションの意義

【セルフメディケーション推進の3つのメリット】

- ① 疾病の予防・早期発見・早期対処・重症化予防によって、国民の健康寿命を延伸することができる。
- ② 健康寿命の延伸が高齢者の社会参加を促し、<u>労働力</u> の確保と消費の活性化により、経済成長が期待できる。
- ③ 国民の行動変容を促し、限りある<u>医療資源を有効活用</u>することで、<u>社会保障制度を維持</u>することが可能となる。



税制によりOTC医薬品の使用促進を 図るべき領域(薬効)

【あるべき姿】

✓ 疾病や世代に対する公平性、生活者や企業の行動に対する中立性の観点、セルフメディケーションを推進するという税制創設の目的から、すべてのOTC医薬品を対象とすべきである。

【あるべき姿に向けた今般のステップとして】

- ✓ <u>代替性</u>の観点から、医療用医薬品、OTC医薬品、スイッチOTC のいずれの実績もある薬効から選択してはどうか。
- ✓ 現役世代を支援する視点から、薬効を選択してはどうか。
- ✓ 市場の大きい薬効を選択してはどうか。



効果と検証のための指標

【意識の変化と行動変容】

- ✓ 認知度、理解度、利用意向
- ✓ 対処行動(OTC利用、受診など)
- ✓ 健康リテラシーのレベル
- ✓ 軽い症状であればOTC医薬品で対処する、等

【医療費の適正化効果】

- ✓ 医療用医薬品のOTC医薬品への置き換え状況
- ✓ セルメ税制利用群と対象群のレセプトによる医療費比較

【OTC使用に関する評価】

- ✓ 使用日数
- ✓ 対処の利便性(生産性)

【その他】

✓ 対象製品の販売金額、市場シェア

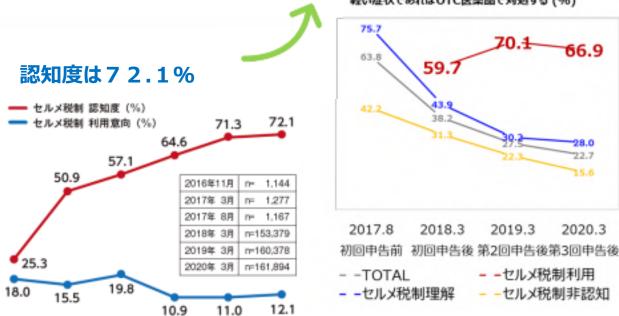


認知度と利用意向、意識の変化と行動変容

OTC利用による受診1回減で、 医療費は6,820円削減

税制利用者の行動変容

軽い症状であればOTC医薬品で対処する(%)

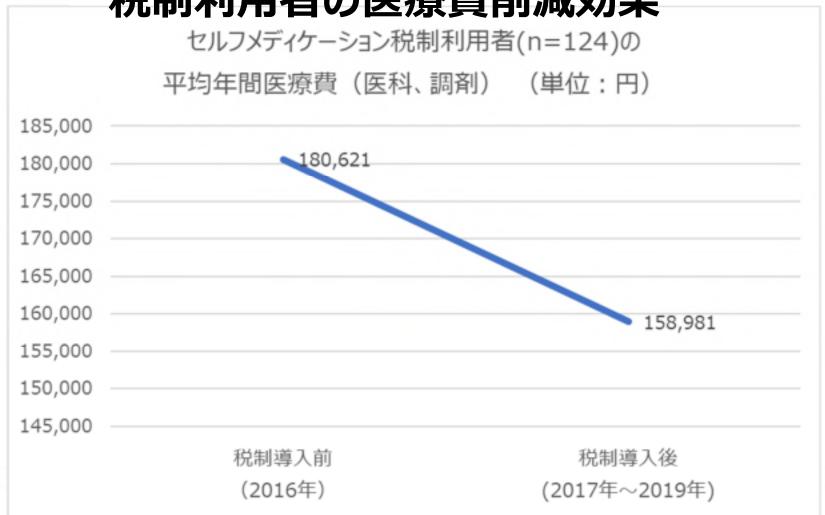


既存領域★におけるOTCで対応可能 な疾患で併発疾患がない場合の 受診1回あたり医療費は6,820円。 (OTC薬協調査/2020年11月)

★かぜ症候群、頭痛、腰痛・肩痛、便秘、 胸やけ、胃痛、もたれむかつき、鼻炎



税制利用者の医療費削減効果



出所:(株)JMDCによる健康保険組合のレセプト調査(2020年11月)。 (株)JMDCが健康保険組合を通じたアンケート調査によりセルフメディケーション税制利用者を特定して、医療費を調査。 調査対象者は約31万人。回答者数6,155名。3年間でセルフメディケーション税制の利用経験者は実数で124名。



除外するもの、経過措置期間

【除外するもの】

- ✓ 特定の薬効を除外すべきではなく、除外するのは成分とすべきではないか。
- ✓ 対象成分の告示後、一定期間、<u>製造販売実績がない成分</u> は対象外としてはどうか。

【必要な経過措置の期間】

- ✓ 経過措置期間は年単位にすべきではないか。
- ✓ 標準的な品質保証期間の3年が妥当ではないか。



✓ 生活者視点で対象範囲を見直すべきではないか。

イブプロフェンは対象だが、アセトアミノフェンは対象外





ベタメタゾン吉草酸エステルは対象だが、対象外となる製品がある



対象に加えるもの

【スイッチOTC以外で使用促進を図るべき薬効】 【範囲拡大による医療費適正化効果が著しく高いと考えられる薬効】

- ✓ 薬効1桁の1、2、4から3薬効程度を選択してはどうか。
- ✓ 薬効 2 桁の11、13、22、23、26、44から選択してはどうか。
- ✓ 下記の薬効3桁を選択し、生活者が理解できるよう、症状別に言い換えてはどうか。
- かぜの諸症状 (114,118,223,224)
- 耳鼻、アレルギーの諸症状 (132,441,449)
- 胃腸の諸症状 (231,232,233,234,235)
- 肩・腰等の腫れ・痛み、湿疹・かゆみの症状 (264)



製品単位では、複数の薬効成分を有している

例:ベンザブロックSプレミアム錠(かぜ薬)

はたらき	成分
発熱やさむけを緩和し、痛みを和らげる	アセトアミノフェン
鼻水を和らげる	ヨウ化イソプロパミド
鼻水・くしゃみを和らげる	d-クロルフェニラミンマレイン酸塩
のどの痛みを和らげる	トラネキサム酸
せきを和らげる	ジヒドロコデインリン酸塩
せき・たんを和らげる	dl-メチルエフェドリン塩酸塩
たんを排出しやすくする	グアイフェネシン
頭痛を和らげる	無水カフェイン
ビタミン	リボフラビン(ビタミンB2)
ビタミン類(ビタミンPの一種)	ヘスペリジン



出所: タケダ健康サイト https://takeda-kenko.jp/



成分単位では、複数の薬効にかかわりがある

薬効分類コード	114	118	132	223
			441	224
			449	

$\stackrel{\wedge}{\bowtie}$		アスピリン	0	0		
$\stackrel{\wedge}{\Longrightarrow}$		アセトアミノフェン	0	0		
$\stackrel{\wedge}{\boxtimes}$	*	イブプロフェン	0	0		
$\stackrel{\wedge}{\simeq}$		エテンザミド	0	0		
$\stackrel{\wedge}{\simeq}$		カフェイン水和物	0	0	0	0
$\stackrel{\wedge}{\simeq}$		カンゾウ	0	0		0

注:☆は医療用医薬品にもある成分。★はスイッチ成分。



【対象成分の告示】

✓2021年3月末までに対象成分を告示していただきたい。

	3月	4月	5月	6月	7月	2	1月
告示	0						
包装材料		改版⇒	印刷⇒	工場納品			
生産 (かぜ薬)					下期許可分 生産開始	生産	出荷

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
現行制度	0					
新制度		0	0	0	0	0

参考 薬効分類 中分類87(3桁) 編 日本OTC医薬品協会

			一年して区米山陽五
111 全身麻酔剤	243 甲状腺,副甲状腺ホルモン剤	329 その他の滋養強壮薬	625 抗ウイルス剤
112 催眠鎮静剤,抗不安剤	244 たん白同化ステロイド剤	331 血液代用剤	629 その他の化学療法剤
113 抗てんかん剤	245 副腎ホルモン剤	332 止血剤	631 ワクチン類
114 解熱鎮痛消炎剤	246 男性ホルモン剤	333 血液凝固阻止剤	632 毒素及びトキソイド類
115 興奮剤,覚せい剤	247 卵胞ホルモン及び黄体ホルモン剤	339 その他の血液・体液用薬	633 抗毒素類及び抗レプトスピラ血清類
116 抗パーキンソン剤	248 混合ホルモン剤	341 人工腎臓透析用剤	634 血液製剤類
117 精神神経用剤	249 その他のホルモン剤(抗ホルモン剤を含む。)	342 腹膜透析用剤	635 生物学的試験用製剤類
118 総合感冒剤	251 泌尿器官用剤	349 その他の人工透析用薬	636 混合生物学的製剤
119 その他の中枢神経系用薬	252 生殖器官用剤(性病予防剤を含む。)	391 肝臓疾患用剤	639 その他の生物学的製剤
121 局所麻酔剤	253 子宮収縮剤		641 抗原虫剤
122 骨格筋弛緩剤	254 避妊剤	393 習慣性中毒用剤	642 駆虫剤
123 自律神経剤	255 痔疾用剤	394 痛風治療剤	649 その他の寄生動物用薬
124 鎮けい剤	259 その他の泌尿生殖器官及び肛門用薬	395 酵素製剤	690 その他の病原生物に対する医薬品
125 発汗剤,止汗剤	261 外皮用殺菌消毒剤	396 糖尿病用剤	711 賦形剤
129 その他の末梢神経系用薬	262 創傷保護剤	397 総合代謝性製剤	712 軟膏基剤
131 眼科用剤	263 化膿性疾患用剤	399 他に分類されない代謝性医薬品	713 溶解剤
132 耳鼻科用剤	264 鎮痛,鎮痒,収斂,消炎剤	411 クロロフィル製剤	714 矯味,矯臭,着色剤
133 鎮暈剤	265 寄生性皮心疾患用剤	412 色素製剤	715 乳化剤
139 その他の感覚器官用薬	266 皮ふ軟化剤(腐しょく剤を含む。)	419 その他の細胞賦活用薬	719 その他の調剤用薬
211 強心剤	267 毛髪用剤(発毛剤,脱毛剤,染毛剤,養毛剤)	421 アルキル化剤	721 X線造影剤
212 不整脈用剤	268 浴剤	422 代謝拮抗剤	722 機能検査用試薬
213 利尿剤	269 その他の外皮用薬	423 抗腫瘍性抗生物質製剤	729 その他の診断用薬(体外診断用医薬品を除く。)
214 血圧降下剤	271 歯科用局所麻酔剤	424 抗腫瘍性植物成分製剤	731 防腐剤
215 血管補強剤	272 歯髄失活剤	429 その他の腫瘍用薬	732 防疫用殺菌消毒剤
216 血管収縮剤	273 歯科用鎮痛鎮静剤(根管及び齲窩消毒剤を含む。)		733 防虫剤
217 血管拡張剤	274 歯髄乾屍剤(根管充填剤を含む。)	441 抗ヒスタミン剤	734 殺虫剤
218 高脂血症用剤	275 歯髄覆たく剤	442 刺激療法剤	- 735 殺そ剤
219 その他の循環器官用薬	276 歯科用抗生物質製剤	443 非特異性免疫原製剤	739 その他の公衆衛生用薬
221 呼吸促進剤	279 その他の歯科口腔用薬	449 その他のアレルギー用薬	741 一般検査用試薬
222 鎮咳剤	290 その他の個々の器官系用医薬品	490 その他の組織細胞機能用医薬品	742 血液検査用試薬
223 去たん剤	311 ビタミンA及びD剤	510 生薬	743 生化学的検査用試薬
224 鎮咳去たん剤	312 ビタミンB1剤	520 漢方製剤	744 免疫血清学的検査用試薬
225 気管支拡張剤	313 ビタミンB剤(ビタミンB1剤を除く。)	590 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品	745 細菌学的検査用薬
226 含嗽剤	314 ビタミンC剤	611 主としてグラム陽性菌に作用するもの	746 病理組織検査用薬
229 その他の呼吸器官用薬	315 ビタミン E剤	612 主としてグラム陰性菌に作用するもの	747 体外診断用放射性医薬品
231 止しゃ剤, 整腸剤	316 ビタミン K剤	613 主としてグラム陽性・陰性菌に作用するもの	749 その他の体外診断用医薬品
232 消化性潰瘍用剤	317 混合ビタミン剤(ビタミン A・D混合製剤を除く。)	614 主としてグラム陽性菌,マイコプラズマに作用するもの	791 ばん創こう
233 健胃消化剤	319 その他のビタミン剤	615 主としてグラム陽性・陰性菌, リケッチア, クラミジアにん	作 <mark>/799 他に分類されない治療を主目的としない医薬品</mark>
234 制酸剤	321 カルシウム剤	616 主として抗酸菌に作用するもの	811 あへんアルカロイド系麻薬
235 下剤, 浣腸剤	322 無機質製剤	617 主として力どに作用するもの	812 コカアルカロイド系製剤
236 利胆剤	323 糖類剤	619 その他の抗生物質製剤(複合抗生物質製剤を含む。	
237 複合胃腸剤	324 有機酸製剤	621 サルファ剤	821 合成麻薬
239 その他の消化器官用薬	325 たん白アミノ酸製剤	622 抗結核剤	829 その他の非アルカロイド系麻薬
241 脳下垂体ホルモン剤	326 臓器製剤	623 抗ハンセン病剤	999 薬効不明
242 唾液腺ホルモン剤	327 乳幼児用剤	624 合成抗菌剤	

注:黄色網掛けは、医療用医薬品、OTC医薬品、スイッチOTC医薬品の実績(2019年)がある薬効

参考

薬効分類 中分類87 (2桁)



- 11 中枢神経系用薬
- 12 末梢神経系用薬
- 13 感覚器官用薬
- 21 循環器官用薬
- 22 呼吸器官用薬
- 23 消化器官用薬
- 24 ホルモン剤
- 25 泌尿生殖器官及び肛門用薬
- 26 外皮用薬
- 27 歯科口腔用薬
- 29 その他の個々の器官系用医薬品
- 31 ビタミン剤
- 32 滋養強壮薬
- 33 血液·体液用薬
- 34 人工透析用薬
- 39 その他の代謝性医薬品
- 41 細胞賦活用薬
- 42 腫瘍用薬

- 43 放射性医薬品
- 44 アレルギー用薬
- 49 その他の組織細胞機能用医薬品
- 51 生薬
- 52 漢方製剤
- 59 その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品
- 61 抗生物質製剤
- 62 化学療法剤
- 63 生物学的製剤
- 64 寄生動物用薬
- 69 その他の病原生物に対する医薬品
- 71 調剤用薬
- 72 診断用薬(体外診断用医薬品を除く)
- 73 公衆衛生用薬
- 74 体外診断用医薬品
- 79 その他の治療を主目的としない医薬品
- 81 アルカロイド系麻薬(天然麻薬)
- 82 非アルカロイド系麻薬



- 1 神経系及び感覚器官用医薬品
- 2 個々の器官系用医薬品
- 3 代謝性医薬品
- 4 組織細胞機能用医薬品
- 5 生薬及び漢方処方に基づく医薬品
- 6 病原生物に対する医薬品
- 7 治療を主目的としない医薬品
- 8 麻薬



	販売金額(百万円) 構成比					薬効分類
	OTC計	スイッチOTC	非スイッチOTC	スイッチOTC	非スイッチOTC	
OTC#	914,685	219,060	695,625	24%	76%	
目薬	72,476	5,477	66,999	8%	92%	
皮膚用薬(除殺菌)	83,394	20,095	63,299	24%	76%	264
漢方薬	62,183		62,183		100%	
滋養強壮剤	41,816		41,816		100%	
ミニドリンク剤	40,125		40,125		100%	
総合感冒薬	76,992	40,784	36,208	53%	47%	118
胃腸薬	44,544	9,131	35,412	20%	80%	232 • 233 • 234
外用鎮痛·消炎剤	69,606	39,503	30,103	57%	43%	264
ビタミンB1剤	30,205	3,480	26,724	12%	88%	
便秘薬	24,138	136	24,002	1%	99%	235
鎮咳去痰剤	25,112	3,685	21,427	15%	85%	223•224
鼻炎治療剤	43,931	23,728	20,203	54%	46%	132
総合ビタミン剤	21,941	3,243	18,698	15%	85%	
毛髪用剤	16,749		16,749		100%	
整腸薬	17,161	708	16,453	4%	96%	231
解熱鎮痛剤	61,228	44,820	16,409	73%	27%	114
口腔用薬	13,731		13,731		100%	
痔疾用剤	13,034		13,034		100%	
その他の医薬品	18,867	6,136	12,731	33%	67%	·
殺菌消毒剤	11,994		11,994		100%	
ビタミンC剤	11,462		11,462		100%	·
薬用酒	11,426		11,426		100%	

出所: インテージSDI 2020/1/1 - 2020/12/31



	販	売金額(百万円)		構反	比	薬効分類
	OTC計	スイッチOTC	非スイッチOTC	スイッチOTC	非スイッチOTC	
OTC計	914,685	219,060	695,625	24%	76%	
うがい薬	10,720		10,720		100%	
ドリンク剤	8,478		8,478		100%	
歯槽膿漏治療剤	8,044		8,044		100%	
その他感覚器官外皮	11,967	4,144	7,823	35%	65%	
催眠鎮静剤	6,581		6,581		100%	
女性用保健薬	6,448		6,448		100%	
検査薬	5,945		5,945		100%	
燻煙殺虫剤	5,842		5,842		100%	
強心剤	5,607	60	5,547	1%	99%	
浣腸剤	5,221		5,221		100%	
鎮暈剤	3,726		3,726		100%	
ビタミンE剤	2,182		2,182		100%	
アレルギー用薬	3,479	1,417	2,062	41%	59%	441.449
殺虫剤(除燻煙)	1,984		1,984		100%	
カルシウム剤	1,272		1,272		100%	
水虫治療薬	13,691	12,500	1,191	91%	9%	
眠気防止剤	946		946		100%	
その他消化器官系薬	304	12	292	4%	96%	
小児五疳薬	132		132		100%	
		スイッチOTC	拡大薬効	対象品の構成比		
		219,060	265,579	53%		

出所: インテージSDI 2020/1/1 - 2020/12/31



製品1個あたりの価格(円)

	スイッチOTC	非スイッチOTC
合計	1,234	994
総合ビタミン剤	3,321	1,599
ビタミンB1剤	3,019	3,228
総合感冒薬	1,466	965
鼻炎治療剤	1,969	923
アレルギー用薬	1,064	1,363
解熱鎮痛剤	827	843
鎮咳去痰剤	1,187	724
胃腸薬	1,161	1,014
整腸薬	990	1,097
便秘薬	884	1,239
その他消化器官系薬	1,723	1,235
外用鎮痛·消炎剤	1,302	744
皮膚用薬(除殺菌)	1,079	830
水虫治療薬	1,398	1,109
目薬	1,342	571
その他感覚器官外皮	1,020	775
強心剤	4,695	3,387
禁煙補助剤	3,352	_
その他の医薬品	1,785	600

製品1個あたりの価格(円)

	スイッチOTC	非スイッチOTC
合計	1,234	994
ドリンク剤	_	548
ミニドリンク剤	_	1,102
滋養強壮剤	_	3,914
ビタミンC剤	_	1,780
ビタミンE剤	_	3,268
女性用保健薬	_	1,902
カルシウム剤	_	3,062
漢方薬	_	1,645
薬用酒	_	1,942
口腔用薬	_	799
うがい薬	_	734
鎮暈剤	_	600
催眠鎮静剤	_	1,351
眠気防止剤	_	418
痔疾用剤	_	1,299
歯槽膿漏治療剤	_	1,045
浣腸剤	_	463
殺菌消毒剤	_	492
毛髪用剤	_	5,761
検査薬	_	957
小児五疳薬	_	1,299
殺虫剤(除燻煙)	_	1,135
燻煙殺虫剤	_	1,033

出所: インテージSDI 2020/1/1 - 2020/12/31

健保連は今年9月に、新型コロナウイルス感染症の拡大期において、国民の医療機関への かかり方をはじめ、自身の体調や意識などにどのような変化があったのかを広く把握する ため、全国の20代~70代の男女4,623人を対象としたwebアンケート方式による意識調査を 実施した。

アンケート結果から、コロナ禍のなか、通院や受診を抑制した回答者の多くは、体調不 良を感じることなく生活することができた。特に、医薬品の長期処方や電話・オンライン 診療の活用、また市販薬の服用などで対応した方にその傾向が強いことなどがわかった。

*webアンケートの対象者の定義および内訳は以下のとおり

<mark>「持病あり」群</mark>=2019年12月(新型コロナ感染拡大以前)時点で、持病(けがを除く)の治 療のために、医療機関に定期的に通院していた方→3,500人

<mark>「持病なし・体調不良あり」群</mark>=「持病あり」群に該当せず、かつ2020年2月(新型コロナ 感染拡大以降)に、医療機関の受診を検討するような体調不良を経験した方→1,123人

主な調査内容

- ○外来受診の状況(「持病あり」群、「持病なし・体調不良あり」群)
- 〇入院・手術の状況
- 〇同居者(14歳以下の児童、65歳以上の高齢者)の受診等の状況
- 〇健康診断の受診状況、健康・医療に対する意識
- ○オンライン診療に関する意識 一等

※最終報告書は12月発行

を予定

調査結果のポイント

【「持病あり」群】

- 1. 緊急事態宣言下に通院を抑制(頻度減+通院とりやめ)した方は全体の24.7%。「かかりつけ 医」がいる方は、より低い傾向 (20.3%)にある
- 2. 通院抑制した方の体調変化は、69.4%が「特に体調が悪くなったとは感じない」と回答した。 長期処方(84.2%)や電話・オンライン診療(80.0%)などで、全体より高い割合を示した
- 3. 外来受診の手段のうち、「オンライン診療」は1.9%。オンライン診療に対する希望状況は、 初診時は34.9%が利用に積極的(とても利用したい+利用したい)なのに対し、再診時では 51.0%となり、初診時を大きく上回った。また、全体では、現役世代を中心に高い関心を示す 一方、高齢者では低調となった

【「持病なし・体調不良あり」群】

- 4. 感染拡大以降、「外来での受診はしなかった」回答者は14.2%だった。「かかりつけ医」がいる方は、より低い傾向(8.2%)にある
- 5. 受診しなかった方の体調変化は、76.3%が体調悪化を感じない(体調が回復した+特に体調が悪くなったとは感じない)と回答した。市販薬の服用による対処(計87.0%)などで、全体より高い割合を示した

【全体】

6. 新型コロナウイルス感染拡大を契機に、病気や健康にかかわる回答者自身の意識変化は、全体の39.2%が「以前に比べ、生活習慣病の予防に関心を持つようになると思う」、23.5%が「以前に比べ、医療機関を受診するかどうかを慎重に考えるようになると思う」などで高い回答割合を示した

「持病なし・体調不良あり」群の受診の抑制による体調変化

図 新型コロナウイルスの感染拡大以降(2020.2以降)の体調不良時に受診をしなかった「持病なし・体調不良あり」群のうち、受診しなかったことで感じる体調の変化一受診しなかった理由別(複数回答)

				受診した	受診しなかったことで感じる体調の変化			
		回答者 数		特に体調が悪くなったとは感じない	体調が少し悪くなっ たと感じる	体調がとても悪く なったと感じる	わからない	
	受診をしなかった「持病なし・体調不良あり」群全体	160	59. 4%	16. 99	12. 5%	3. 1%	8. 1%	
	医療機関で新型コロナウイルスに感染するかもしれないと思ったから	87	57. 5%	19. 59	12.6%	1. 1%	9. 2%	
	市販の薬を飲んで症状に対処していたから	54	70.4%	16. 79	7. 4%	1. 9%	3. 7%	
	病状・体調が回復したから	43	81.4%	14. 09	0.0%	0.0%	4. 7%	
受	外出自体をしないようにしていたから	37	51.4%	21. 69	16. 2%	5. 4%	5. 4%	
診	他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思ったから	33	63.6%	18. 29	9. 1%	3. 0%	6. 1%	
をし	受診する時間がとれなかったから	17	41. 2%	17. 69	35. 3%	5. 9%	0.0%	
な	病状・体調が悪かったから	16	62.5%	6. 39	12.5%	18. 8%	0.0%	
か	自身の体調管理により、受診する必要性を感じなくなったから	14	78.6%	21. 49	0.0%	0. 0%	0.0%	
った	医師や看護師から受診しないように言われたから	5	80.0%	0.09	0.0%	0. 0%	20.0%	
理	家族から受診しないように言われたから	5	80.0%	0.09	20.0%	0.0%	0.0%	
由	入院していたから	2	0.0%	0.09	0.0%	0.0%	100.0%	
	電話やオンラインで診療を受けたから	1	100.0%	0.09	0.0%	0.0%	0.0%	
	その他の理由	12	50.0%	33. 39	8. 3%	8. 3%	0.0%	
	特に理由はない	3	0.0%	33. 39	33.3%	0.0%	33.3%	

感染拡大以降(2020年2月以降)において、体調不良があったにもかかわらず、受診をしなかった<u>「持病なし・体調不良あり」群のうち、59.4%が「受診をしなくても体調が回復した」、16.9%が「特に体調が悪くなったとは感じない」</u>と回答した。

受診をしなかった「持病なし・体調不良あり」群の体調の変化について、受診しなかった理由別(30人以上の回答があった理由=網掛け)にみると、「受診しなくても体調が回復した」と回答した割合は、「病状・体調が回復したから」(81.4%)、「市販の薬を飲んで症状に対処していたから」(70.4%)、「他の人に新型コロナウイルスを感染させるかもしれないと思ったから」(63.6%)で、全体(59.4%)よりも高くなった。

新型コロナウイルスの感染拡大を契機とした病気や健康の意識の変化

図 新型コロナウイルスの感染拡大を契機として、病気や健康にかかわる回答者自身の意識が どのように変わると思うか(複数回答)

			以前と比べての変化					
	回答者数		生活習慣病以外の 病気の予防や健康 管理に関心を持つ ようになると思う	を受診しようと考	医療機関を受診するかどうかを慎重に考えるようになると思う	数の薬の処方を受けて、受診の頻度	医療機関の受診に かえて、市販の薬 を服用することが 増えると思う	
「持病あり」群	3,500	38.5%	31. 9%	3.0%	19.8%	18. 5%	3. 2%	
「持病なし・体調不良あり」群	1,123	41.5%	36. 5%	4. 2%	35. 0%	17. 0%	9. 5%	
全体	4,623	39. 2%	33. 0%	3.3%	23. 5%	18. 1%	4. 7%	
	回答者数	オンラインでの受 診を活用しようと 考えることが増え ると思う	た薬の配送を活用 しようと考えるこ	オンラインでの健康相談を活用しようと考えることが増えると思う	ドラッグストアなど、医療機関以外での健康相談を活用しようと考えることが増えると思う	その他の意識	特に意識は変わらないと思う	
「持病あり」群	3,500	10.6%	6. 4%	5. 5%	3. 6%	0. 4%	32. 2%	
「持病なし・体調不良あり」群	1,123	16. 4%	9. 2%	9. 2%	7. 8%	0.4%		
全体	4,623	12.0%	7. 1%	6. 4%	4. 7%	0. 4%	29.9%	

新型コロナウイルス感染拡大を契機に、病気や健康にかかわる回答者自身の意識が、今後どのように変わると思うか問うたところ、全体の39.2%が「以前に比べ、生活習慣病の予防に関心を持つようになると思う」、33.0%が「以前に比べ、生活習慣病以外の病気の予防や健康管理に関心を持つようになると思う」、23.5%が「以前に比べ、医療機関を受診するかどうかを慎重に考えるようになると思う」など、高い回答割合を示した。一方で、29.9%が「特に意識は変わらないと思う」と回答した。

【「かかりつけ医」の普及促進】

◆ 身近な医療機関を中心とした「かかりつけ医」の普及を促し、患者の継続的な 治療や管理を担いつつ、医薬品の適切な長期処方やオンライン診療などの方法 を組み合わせ、患者が適正に受診できる仕組みが必要とされている

【セルフメディケーションの促進】

◆ 様ざまな症状に自助努力で一定程度対応できるよう、安全性に配慮したうえで、 市販薬(スイッチOTC等)の対象範囲の拡大など、セルフメディケーションの 促進が求められている

【オンライン診療の環境整備と推進】

◆ 患者のニーズが高いオンライン診療については、対象疾患などの条件や年齢層 に応じた利用支援策などの環境を整えつつ、推進することが考えられる

【予防・啓発など保険者機能の発揮】

◆ 生活習慣病を中心とした加入者の予防意識の高まりや、ヘルスリテラシーの向上に対応するため、保険者は、予防・健康づくりの更なる推進や適正受診のための情報提供・啓発など、事業主と協力しつつ、保険者機能を発揮することが求められている

平野構成員提出資料

優良顧客購買サマリ

●対象企業: SOO加盟小売業500店舗 ●期間: 2020年1月1日-2020年12月31日

●対象カテゴリー:医薬品人数・売上上位カテゴリー

●条件:優良顧客(年/60000円以上購入者 食品カテゴリー除外)

対象人数:3182519人 中 374842人(11.8%)

■優良顧客 VS 全顧客 全カテゴリー購買サマリ

CODE	購入人数	延べ人数	金額	数量	平均購入頻度	平均客単価	客単価(一回)	平均売価	買上点数(一回)	リピート率	店舗数
優良顧客	374842	21808070	62079626103	193669344	58.18	165615	2847	321	8.88	98.3%	500
全顧客	3,182,519	63,480,351	133,420,902,260	464,528,960	19.95	41,923	2,102	287	7.32	95.0%	500

■優良顧客 VS 全顧客 医薬品10カテゴリー購買サマリ

●優良顧客のみ

CODE	名称	購入人数	延べ人数	金額	数量	平均購入頻度	平均客単価	客単価(一回)	平均売価	買上点数(一回)	リピート率
221101	解熱鎮痛薬	122496	401310	409843225	451560	3.28	3346	1021	908	1.13	69.5%
221103	かぜ薬	119911	385420	576865042	509891	3.21	4811	1497	1131	1.32	68.9%
221201	鎮咳去たん薬	59450	197085	224451544	311732	3.32	3775	1139	720	1.58	69.8%
221401	胃腸薬	84683	251671	295199413	277385	2.97	3486	1173	1064	1.1	66.4%
221601	目薬	193417	571099	455899012	676082	2.95	2357	798	674	1.18	66.1%
221603	鼻炎用薬	69553	188312	279772254	209583	2.71	4022	1486	1335	1.11	63.1%
221907	外用鎮痛・消炎薬(貼付・塗布薬)	130516	417888	539748755	519902	3.2	4135	1292	1038	1.24	68.8%
221909	外用湿疹・皮膚炎用薬	91767	192209	229030634	212212	2.09	2496	1192	1079	1.1	52.3%
221911	かゆみ・虫さされ用薬	113312	177175	130426688	204835	1.56	1151	736	637	1.16	36.1%
222103	ミニドリンク剤	60324	248517	413610657	335969	4.12	6856	1664	1231	1.35	75.7%
222501	禁煙補助薬	1184	11961	51103411	12942	10.1	43162	4273	3949	1.08	90.1%
2222	ビタミン主製剤	72827	197597	512259391	220584	2.71	7034	2592	2322	1.12	63.1%

●500店舗合計

CODE	名称	購入人数	延べ人数	金額	数量	平均購入頻度	平均客単価	客単価(一回)	平均売価	買上点数(一回)	リピート率
221101	解熱鎮痛薬	376378	839330	793848861	928800	2.23	2109	946	855	1.11	55.2%
221103	かぜ薬	365765	788430	1127288894	960525	2.16	3082	1430	1174	1.22	53.6%
221201	鎮咳去たん薬	167720	380839	400794314	546003	2.27	2390	1052	734	1.43	56.0%
221401	胃腸薬	260778	554842	622577216	600445	2.13	2387	1122	1037	1.08	53.0%
221601	目薬	677099	1431458	1054477816	1675934	2.11	1557	737	629	1.17	52.7%
221603	鼻炎用薬	197152	406414	584213282	448812	2.06	2963	1437	1302	1.1	51.5%
221907	外用鎮痛・消炎薬(貼付・塗布薬)	425952	947766	1098294147	1136706	2.23	2578	1159	966	1.2	55.1%
221909	外用湿疹・皮膚炎用薬	255925	428533	487697776	462258	1.67	1906	1138	1055	1.08	40.3%
221911	かゆみ・虫さされ用薬	344714	470109	332000524	532324	1.36	963	706	624	1.13	26.7%
222103	ミニドリンク剤	163493	448393	661161885	581162	2.74	4044	1475	1138	1.3	63.5%
222501	禁煙補助薬	3336	16466	62866614	17663	4.94	18845	3818	3559	1.07	79.7%
2222	ビタミン主製剤	188475	387684	946755577	421315	2.06	5023	2442	2247	1.09	51.4%

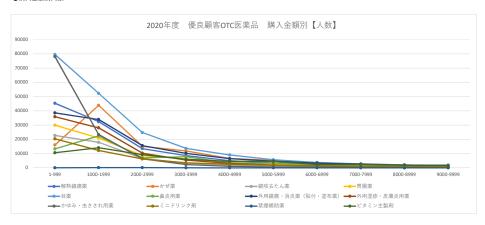
●対比

CODE	名称	購入人数	延べ人数	金額	数量	平均購入頻度	平均客単価	客単価(一回)	平均売価	買上点数(一回)	リピート率
221101	解熱鎮痛薬	32.5%	47.8%	51.6%	48.6%	147.1%	158.7%	107.9%	106.2%	101.8%	126.0%
221103	かぜ薬	32.8%	48.9%	51.2%	53.1%	148.6%	156.1%	104.7%	96.3%	108.2%	128.5%
221201	鎮咳去たん薬	35.4%	51.8%	56.0%	57.1%	146.3%	157.9%	108.3%	98.1%	110.5%	124.8%
221401	胃腸薬	32.5%	45.4%	47.4%	46.2%	139.4%	146.0%	104.5%	102.6%	101.9%	125.2%
221601	目薬	28.6%	39.9%	43.2%	40.3%	139.8%	151.4%	108.3%	107.2%	100.9%	125.5%
221603	鼻炎用薬	35.3%	46.3%	47.9%	46.7%	131.6%	135.7%	103.4%	102.5%	100.9%	122.5%
221907	外用鎮痛・消炎薬(貼付・塗布薬)	30.6%	44.1%	49.1%	45.7%	143.5%	160.4%	111.5%	107.5%	103.3%	124.9%
221909	外用湿疹・皮膚炎用薬	35.9%	44.9%	47.0%	45.9%	125.1%	131.0%	104.7%	102.3%	101.9%	129.7%
221911	かゆみ・虫さされ用薬	32.9%	37.7%	39.3%	38.5%	114.7%	119.5%	104.2%	102.1%	102.7%	135.2%
222103	ミニドリンク剤	36.9%	55.4%	62.6%	57.8%	150.4%	169.5%	112.8%	108.2%	103.8%	119.2%
222501	禁煙補助薬	35.5%	72.6%	81.3%	73.3%	204.5%	229.0%	111.9%	111.0%	100.9%	113.0%
2222	ビタミン主製剤	38.6%	51.0%	54.1%	52.4%	131.6%	140.0%	106.1%	103.3%	102.8%	122.9%

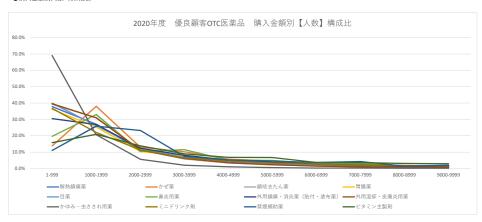
購入金額別 (グラフ)

- ●対象企業:SOO加盟小売業500店舗
- ●期間:2020年1月1日-2020年12月31日
- ●対象カテゴリー:医薬品人数・売上上位カテゴリー
- ●条件:優良顧客(年/60000円以上購入者 食品カテゴリー除外) 対象人数:3182519人 中 374842人(11.8%)

●購入金額別人数



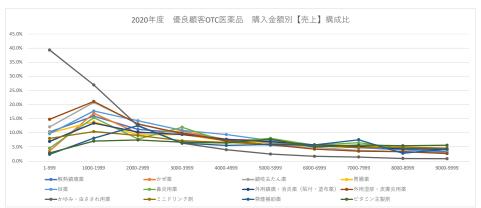
●購入金額別人数 (構成比)



●購入金額別売上



購入金額別売上(構成比)



同期間併買

●対象企業:SOO加盟小売業500店舗

●期間:2020年1月1日-2020年12月31日

●対象カテゴリー:医薬品人数・売上上位カテゴリー

●条件:優良顧客(年/60000円以上購入者 食品カテゴリー除外) 対象人数:3182519人 中 374842人(11.8%)

波及率(新規になりやすい)→ビタミン主製剤(ビタミンCは除外)

感応率(併買されやすい)→解熱鎮痛・かぜ薬・目薬・外用鎮痛・消炎薬(貼付・塗布薬)

●同期間併買

● ⊢.																								
NO	JICFS品名	購入人数	1	2	3	4	(5)	6	7	8	9	10	(1)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	17)	(18)	19	20	21)	波及率
1	解熱鎮痛薬	125468	/	45.2%	21.2%	32.1%	60.7%	26.7%	44.3%	30.4%	33.9%	19.8%	0.0%	0.2%	5.9%	6.5%	1.0%	7.0%	0.1%	3.8%	0.4%	5.9%	0.3%	3.5
2	かぜ薬	123622	45.8%		26.0%	33.3%	60.1%	26.7%	43.4%	30.7%	35.3%	23.4%	0.0%	0.2%	6.3%	6.4%	0.9%	6.8%	0.2%	3.4%	0.4%	7.0%	0.4%	3.1
3	鎮咳去たん薬	61786	43.0%	52.1%	/	33.9%	61.6%	28.3%	44.7%	32.8%	37.1%	24.1%	0.0%	0.3%	6.9%	6.5%	1.1%	7.1%	0.3%	3.4%	0.5%	7.5%	0.4%	3.5
4	胃腸薬	87541	45.9%	47.1%	24.0%		62.9%	24.9%	47.9%	32.3%	35.9%	24.6%	0.0%	0.3%	7.9%	7.0%	1.3%	7.6%	0.2%	3.6%	0.6%	9.3%	0.4%	3.4
5	目薬	196909	38.7%	37.7%	19.3%	28.0%		23.4%	41.1%	29.4%	34.1%	18.9%	0.0%	0.2%	5.7%	6.0%	0.8%	6.9%	0.2%	3.3%	0.4%	6.2%	0.3%	2.6
6	鼻炎用薬	70890	47.2%	46.5%	24.6%	30.8%	65.1%		43.1%	32.8%	35.7%	20.3%	0.0%	0.2%	5.9%	6.9%	1.0%	7.3%	0.2%	3.8%	0.5%	6.1%	0.4%	3.3
7	外用鎮痛・消炎薬(貼付・塗布薬)	133684	41.6%	40.2%	20.7%	31.4%	60.6%	22.8%		31.1%	36.5%	20.1%	0.0%	0.3%	7.0%	5.8%	1.1%	6.3%	0.2%	3.0%	0.4%	7.6%	0.3%	3.0
8	外用湿疹・皮膚炎用薬	94647	40.2%	40.0%	21.4%	29.9%	61.1%	24.5%	44.0%		39.5%	19.1%	0.0%	0.2%	5.8%	6.3%	0.9%	7.0%	0.2%	3.4%	0.5%	6.4%	0.3%	3.1
9	かゆみ・虫さされ用薬	113878	37.4%	38.3%	20.2%	27.6%	59.0%	22.2%	42.8%	32.9%		18.0%	0.0%	0.2%	5.4%	5.7%	0.8%	6.3%	0.2%	2.8%	0.4%	6.3%	0.3%	2.9
10	ミニドリンク剤	62204	40.0%	46.5%	23.9%	34.6%	59.8%	23.1%	43.3%	29.1%	33.0%		0.0%	0.3%	8.5%	7.5%	1.2%	8.2%	0.3%	4.1%	0.6%	8.4%	0.4%	3.3
11)	ビタミンA主薬製剤	17	35.3%	47.1%	17.7%	52.9%	58.8%	11.8%	41.2%	29.4%	47.1%	41.2%		11.8%	29.4%	11.8%	5.9%	35.3%	0.0%	5.9%	5.9%	11.8%	0.0%	4.6
(12)	ビタミンE主薬製剤	700	32.1%	41.9%	23.7%	42.7%	58.7%	19.4%	49.0%	32.6%	36.9%	28.4%	0.3%		15.3%	13.7%	6.0%	31.7%	1.0%	7.0%	2.4%	22.6%	0.3%	4.3
(13)	ビタミンB1主薬製剤	17576	41.8%	44.2%	24.2%	39.4%	63.8%	23.6%	53.0%	31.4%	35.1%	30.1%	0.0%	0.6%		8.7%	3.0%	11.2%	0.2%	4.7%	0.8%	18.0%	0.4%	3.9
(14)	ビタミンB2主薬製剤	18698	43.8%	42.2%	21.4%	32.7%	63.4%	26.0%	41.3%	31.9%	34.7%	24.9%	0.0%	0.5%	8.2%		1.5%	14.4%	0.3%	10.7%	0.8%	9.5%	0.4%	3.6
(15)	ビタミンB12主薬製剤	2458	50.7%	46.9%	28.4%	45.7%	66.2%	28.0%	60.6%	35.4%	35.4%	31.4%	0.0%	1.7%	21.2%	11.7%		14.7%	0.4%	5.7%	1.3%	18.1%	0.3%	4.5
16)	ビタミンC主薬製剤	22108	39.7%	38.0%	19.7%	30.2%	61.8%	23.5%	37.8%	29.9%	32.6%	23.1%	0.0%	1.0%	8.9%	12.2%	1.6%		0.3%	8.4%	1.5%	10.3%	0.4%	3.4
17)	ビタミンA D主薬製剤	566	29.7%	36.9%	28.1%	28.3%	61.3%	24.9%	36.0%	32.9%	38.0%	27.6%	0.0%	1.2%	7.4%	10.1%	1.8%	13.1%		4.6%	2.3%	9.4%	0.9%	3.6
(18)	ビタミンB2B6主薬製剤	9688	48.6%	42.8%	21.5%	32.7%	66.2%	27.8%	40.7%	32.8%	33.1%	26.2%	0.0%	0.5%	8.5%	20.6%	1.4%	19.1%	0.3%		0.9%	9.0%	0.2%	3.8
19	ビタミンEC主薬製剤	1375	33.1%	36.1%	22.6%	35.9%	62.9%	23.3%	39.4%	31.8%	34.9%	26.0%	0.1%	1.2%	10.2%	10.9%	2.4%	24.7%	1.0%	6.5%		12.7%	0.6%	3.8
20	ビタミンB1B6B12主薬製剤	19517	37.8%	44.0%	23.9%	41.6%	62.9%	22.0%	52.1%	30.9%	36.6%	26.8%	0.0%	0.8%	16.3%	9.1%	2.3%	11.7%	0.3%	4.5%	0.9%		0.4%	3.9
21)	禁煙補助薬	1217	34.7%	35.7%	20.1%	27.1%	52.1%	22.8%	37.6%	25.6%	28.9%	19.9%	0.0%	0.2%	5.9%	5.5%	0.6%	7.5%	0.4%	1.9%	0.7%	5.7%		3.0
	感応率		8.1	8.5	4.5	6.9	12.3	4.8	8.8	6.3	7.1	4.9	0.0	0.2	2.0	1.8	0.4	2.5	0.1	0.9	0.2	2.0	0.1	

例>波及率・感応率

波及率:値が高いものはブランドの「入口」



算出方法:商品Aユーザーの商品B~Eの併費率を加算

感応率:値が高いものは併買されやすい商品



舞出方法:商品A~Dユーザーの商品Eの制質率を知算

【波及率】 同期間併買率を横方 向に足したもの … 波及率が 高い商品は、その商品を軸にシ リーズ内の他商品も買いやすい

【感応率】 同期間併買率を縦方 向に足したもの … 感応率が 高い商品は、他の商品購入者か ら併買されやすい(ついで買い されやすい)

No.	Group	購入人数	オーラル	ボディ 石鹸	ハンド ソープ	ベビー	衣料用 洗剤	台所用 洗剤	住居用 洗剤	インパス ヘアケア	洗颜料	波及率
1	オーラル	7,258	100,0%	18.7%	8.7%	2.2%	12.3%	4.6%	8.0%	5.7%	1.1%	0.61
2	ボディ・石鹸	27,096	5.0%	100.0%	5.2%	1.6%	7.1%	2.5%	5.4%	4.1%	0.8%	0.32
3	ハンドソープ	7,585	8.4%	18.5%	100.0%	5.2%	12.7%	5.9%	11.0%	5.0%	1.5%	0.68
4	ベビー	3,081	5.3%	14.3%	12.9%	100.0%	12.1%	4.8%	11.1%	4.5%	1.3%	0.66
5	衣料用洗剤 (漂白剤含む)	16,496	5.4%	11.6%	5.8%	2.3%	100.0%	3.9%	11.4%	2.9%	0.5%	0.44
6	台所用洗剤	2,891	11.6%	23.7%	15.5%	5.2%	22.3%	100.0%	14.1%	8.0%	1.6%	1.02
7	住居用洗剤 (洗クリ含む)	17,252	3.4%	8.5%	4.8%	2.0%	10.9%	2.4%	100.0%	1.9%	0.5%	0.34
8	インバスヘアケア	3,797	10.8%	29,4%	9.9%	3,6%	12.7%	6.1%	8.4%	100.0%	2.7%	0.84
9	洗颜料	852	9.2%	25.5%	13.5%	4.7%	10.1%	5,5%	9,9%	11.9%	100.0%	0.90
	癌広率		0.59	1.50	0.76	0.27	1.00	0.36	0.79	0.44	0.10	

三井構成員提出資料

セルフメディケーション推進に関する有識者検討会 歯科におけるセルフメディケーションについて

公益社団法人 日本歯科医師会 常務理事 三井 博晶

以下の記述は、歯科におけるセルフメディケーションの在り方や問題点等について、日本歯科医学会ならびに有識者等に確認した意見であり、公益社団法人 日本歯科医師会としての見解ではございません。

1. 高濃度フッ素の安全性について

○市販薬としての使用の際の副作用・問題点

副作用につきましては、医療用医薬品の「ミラノール顆粒」および「オラブリス洗口用顆粒」 では使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査が実施されておりませんので、それぞれの医薬品インタビューフォームに記載されている急性中毒、慢性毒性、過量投与等をご参照ください(資料添付)。

問題点につきましては、用法の間違いによる健康被害が考えられます。既に市販されているエフコート等の用法は「毎日法」で、高濃度フッ素洗口液が市販されるとするとその用法は「週1回法」になることと思います。高濃度フッ素洗口液を誤って毎日使用してしまうことによる健康被害の発生が予想されます。

○高濃度フッ素の使い方

また、日本におけるフッ化物配合歯磨剤のフッ化物イオン濃度(フッ素濃度)の上限は、フッ化ナトリウムとモノフルオロフォスフェートは1,500pmでフッ化第一錫は1,000ppmとなっております。したがって、1,800ppmの歯磨剤は日本では市販されていません。

フッ化物配合歯磨剤のフッ化物イオン濃度の上限を1,500ppmと決めたのは、日本も加盟しているISO(国際基準協会)という組織であり、使用量は歯ブラシの植毛部に乗る量でブラッシング後は飲み込まずに吐き出すことなど、通常の使い方をしている限り安全性には問題ありません。ただし、1,000ppmを超える歯磨剤に関しては、6歳未満の子供には使用を控え、保管も6歳未満の子供の手の届かないところに置くことを容器に表示しなければなりません。これは、6歳未満ではエナメル質の形成が完了していない永久歯がある可能性が高いため、高濃度フッ化物配合歯磨剤の日常の誤飲によって歯のフッ素症(いわゆる斑状歯)を生じる危険性があるためです。ただし、専門的には歯のフッ素症(いわゆる斑状歯)は健康障害ではなく見た目からくる審美障害と理解されています。

以上は、2017年に厚生労働省がフッ化物配合歯磨剤のフッ化物イオン濃度の新たな上限 を認可する際の会議において決定されたものです。

2. 「歯槽膿漏」の適応症としての名称使用について

医療用医薬品の適応症には「歯槽膿漏」は使用されていませんが、一般用医薬品には使用されています。

日本歯周病学会のガイドライン等の文書、学生教育や国家試験では、「歯槽膿漏」という用語は一切、使われていません。おそらく、歯磨剤等の成分で効能等をうたう場合、使用できる用語が、昔に承認されたものが現在も使用されているのだと理解しています。

一部歯科材株式会社では、製品(デントヘルスPROA)において「歯肉炎・歯槽膿漏薬」として販売してされているようです。

3. イソチペンジル塩酸塩の歯周疾患適応薬・薬剤の機序について

イソチペンジル塩酸塩(歯痛・歯槽膿漏薬に限る)は、セルフメディケーション税制対象有効成分の一つに挙げられていますが、現在は該当する製剤が無いようです。1988年にスイッチOTC成分として認められ、一般用医薬品の歯痛・歯槽膿漏薬が販売開始され、その後販売中止になったものと思われます。なお、薬効分類は抗ヒスタミン薬です。

参考資料

http://www.watarase.ne.jp/aponet/blog/160603.html/comment-page-1

なお、歯周病の治療では、歯科医師がLDDSとして「ミノサイクリン塩酸塩」をあくまでも、補助的に使用することはあり、これについては、抗菌薬ですので、学術的なエビデンスは十分にあります。それ以外の薬剤も一部、歯科医師、患者が使用する例はあると思います。

昔から、「アセス」のような市販のものを歯肉のマッサージ等に使用する例はあると思います。 あくまでもプラークコントロールが大切ですので、このような製品を患者が使用しても、積極的な 状態の改善にはつながりませんが、歯肉組織の血行を促したり、爽快感を得たりする効果はあ るかと思います。したがって、患者モチベーションの観点からは、決して否定されるべきものでは ないと考えます。歯科医師、歯科衛生士による治療を妨げるものではありません。

4. 歯痛・歯肉腫脹に対する一般薬(セルフメディケーション)の是非について

セルフメディケーションにおいて最も大切なことは、安全性であると考えます。医療に関して素人の一般市民が、自己判断で行っても大丈夫と考えられる軽症に対して、安全に使用できる薬が一般薬に相応しいと考えます。過分な効果を有する一般薬の使用によって、医療機関を受診すべき症状を有する患者の受診が遅れるようなことは避けなければなりません。

歯痛や疼痛を伴う歯肉腫脹に対しては、鎮痛薬等のセルフメディケーションは必要で、現在 も市販薬が使われていると思います。

慢性の歯周病に対しては、プラークコントロールー環として、洗口液等を補助的に使用することは一定のメリットはありますが、その他の一般薬をセルフメディケーションとして使用することについては、賛成できません。

5. 歯科適用のセルフメディケーション薬・OTC薬について 主な製剤は次の通りです。

歯科口腔用薬

口腔咽喉薬

・アズレンうがい薬、他 (主成分:アズレンスルホン酸ナトリウム水和物)

・CPCドロップ、他

(主成分:セチルピリジニウム塩化物水和物)

のどスプレー、他

(主成分:ポビドンヨード)

・ルゴール液、他

(主成分:ヨウ素、液状フェノール、グリセリン)

口内炎・口唇炎用薬

・アフタッチA、他

(主成分:トリアムシノロンアセトニド)

・サトウロ内軟膏、他

(主成分:アズレンスルホン酸ナトリウム水和物)

・トラフル錠、他

(主成分:トラネキサム酸)

歯痛薬・歯槽膿漏薬

・アセス、他

(主成分:カミツレチンキ、ラタニアチンキ、ミルラチンキ)

•正露丸、他

(主成分:クレオソート、オウバク末、カンゾウ末等)

•新今治水

(主成分:チョウジ油、フェノール、dl-カンフル等)

・デントヘルスR、他

(主成分:グリチルリチン酸二カリウム、アラントイン、

ヒノキチオール等)

う蝕予防薬

エフコート、他

(主成分:フッ化ナトリウム)

その他

解熱鎮痛薬

・ロキソニンS、他

(主成分:ロキソプロフェンナトリウム水和物)

・イブA錠、他

(主成分:イブプロフェン)

・バファリンA、他

(主成分:アスピリン)

·バファリンルナJ、他

(主成分:アセトアミノフェン)

口唇ヘルペス用薬

アクチビア軟膏、他

(主成分:アシクロビル)

アラセナSクリーム、他 (主成分:ビダラビン)

セルフメディケーション推進に関する有識者検討会 開催要綱

厚生労働省医政局経済課

1. 開催趣旨

12月21日に閣議決定された政府税制改正大綱においては、セルフメディケーション税制について、対象をより効果的なものに重点化した上で、5年の延長を行うこととされた。

上記の具体的な範囲については、専門的な知見を活用して決定するとともに、見直しによる 効果の検証方法についても検討することが求められていることから、セルフメディケーション税制 の対象医薬品の範囲及び今後の医療費削減効果等の検証方法等について専門家等の意見を 聴くため、検討会を開催する。また、本検討会においては、税制以外のセルフメディケーション 推進策の検討も行う。

2. 検討事項

- (1) セルフメディケーション税制の対象医薬品のより効果的な範囲
- (2) 今後の医療費削減効果等の検証方法
- (3) その他

3. 構成員

- (1) 検討会は、別添の構成員により構成する。
- (2) 検討会は、委員のうち1人を座長として選出する。
- (3) 検討会は、必要に応じ、適当と認める有識者等を参考人として招致することができる。

4. 運営

- (1) 検討会は、医政局長が、関係局等の協力を得つつ、構成員の参集を求め開催する。
- (2) 座長は、議長として検討会の議事を整理する。
- (3) 検討会は原則として公開するとともに、議事録を作成し、公表する。
- (4) 検討会の庶務は医政局経済課が行う。
- (5) 会議は、原則公開とする。ただし、会議を公開することにより、個人情報の保護に支障を及ぼすおそれがある場合、個人又は団体の権利利益が不当に侵害されるおそれがある場

合、自由闊達な意見交換に支障がある場合など、必要があると座長が認めた場合は、会議を非公開とすることができる。会議を非公開にする場合でも、開催予定とともに非公開である旨及びその理由を公開する。

- (6) 会議資料及び議事録については、後日ホームページにおいて公開する。ただし、議事 内容により非公開にする必要があると座長が認めた場合には、非公開である旨及びその 理由を明示するとともに、座長が認める範囲において議事要旨を公開する。
- (7) その他、検討会の運営に関する必要な事項は、座長が検討会の了承を得て、その取扱いを定める。

セルフメディケーション推進に関する有識者検討会 構成員

井深 陽子 慶応義塾大学経済学部 教授

岩月 進 公益社団法人日本薬剤師会 常務理事

黒川 達夫 日本OTC医薬品協会 理事長

幸野 庄司 健康保険組合連合会 理事

菅原 琢磨 法政大学経済学部経済学科 教授

関 光彦 一般社団法人日本医薬品卸売業連合会

大衆薬卸協議会大衆薬運営員会委員 (大衆薬幹事代理)

宗林 さおり 独立行政法人国民生活センター 理事

中島 誠 全国健康保険協会 理事

中野 透 公益社団法人国民健康保険中央会 常務理事

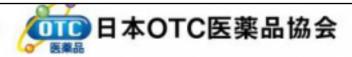
平野 健二 一般社団法人日本チェーンドラッグストア協会 理事

別所 俊一郎 東京大学大学院経済学研究科 准教授

三井 博晶 公益社団法人日本歯科医師会 常務理事

宮川 政昭 公益社団法人日本医師会 常任理事

参考資料2.セルフメディケーション税制16万人調査の結果(日本OTC医薬品協会)



プレスセミナー(2020年7月2日開催)資料から抜粋

セルフメディケーション税制 16万人調査の結果

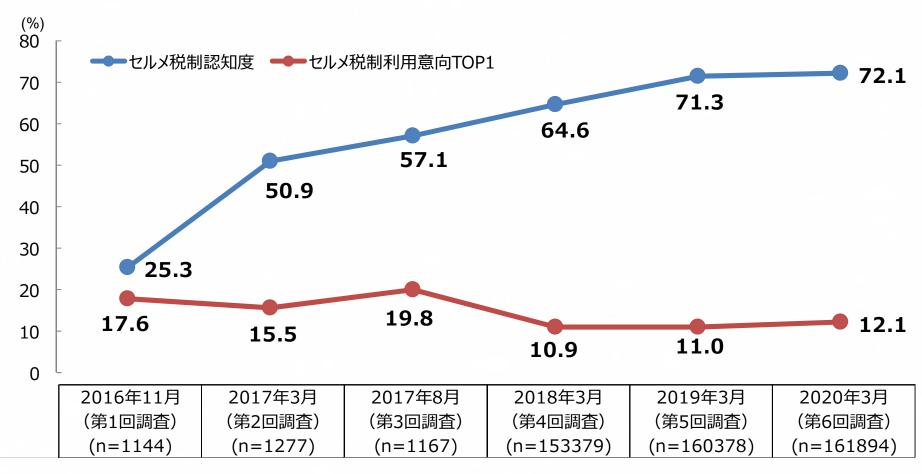


生活者16万人調査

調査対象	男女20歳~69歳2019年(令和元年)の確定申告状況、税制対象品購入金額、セルメ税制利用 意向などによって抽出
地域·手法	全国・インターネット調査・一次調査はウェイトバック集計により全国の性別、年齢構成に 合わせて補正
抽出フレーム	インターネットリサーチモニター (学生を除く)
回収数	■一次調査: n=161,894 ■二次調査: n=496 (1)セルメ税制利用群: n=66 ・2019年分について本人または家族が確定申告し、セルメ税制で控除を受けた ・税制対象品年間購入金額12,000円超 ・OTC購入時のレシート、健康診断の結果通知表を保管 (2)セルメ税制利用予備群: n=430 ・2019年分について本人確定申告(医療費控除・セルメ税制なし) ・税制利用意向TOP1・OTC年間購入金額5,000円以上
調査項目数	■一次調査:15問 ■二次調査:60問
実施日	■一次調査:2020/3/13(金)~3/17(火) ■二次調査:2020/3/20(金)~3/23(月)
調査実施機関	株式会社インテージヘルスケア



認知が拡大しても利用拡大につながらないことは既知今回の調査では認知度も頭打ちとなった



出所:生活者16万人調查(2020年3月)



認知度は全世代で横ばい 20代は男女ともに微減

	20	16年11月	2017年3月		2017年8月	2018年3月	2019年3月	2020	年3月	差
	(第	[1回調査]	(第2回調査)	1	(第3回調査)	(第4回調査)	(第5回調査)	(第6回	調査)	今回-前回
TOTAL		25.3	50).9	57.1	64.6	71.3		72.1	0.8
男性計		24.6	46	5.1	53.9	61.2	69.0		69.5	0.5
女性計		26.0	55	5.8	60.2	67.9	73.4		74.8	1.4
男性20代		21.7	33	3.0	45.2	50.4	56.9		54.8	-2.1
男性30代		21.3	50).4	58.8	59.9	67.3		66.4	-0.9
男性40代		27.7	47	7.6	52.5	59.7	68.4		70.3	1.9
男性50代		22.4	46	5.9	53.5	62.5	70.7		73.1	2.4
男性60代		29.4	50).4	59.5	70.7	79.1		79.3	0.2
女性20代		16.9	32	2.3	42.0	53.2	58.1	1	57.2	-0.9
女性30代		15.7	57	7.0	60.5	66.2	71.2		73.3	2.1
女性40代		24.0	68	3.7	65.1	69.3	74.8		77.4	2.6
女性50代		33.4	60).4	65.0	72.2	78.1		80.2	2.1
女性60代		41.2	62	2.2	66.4	73.5	80.4		80.3	-0.1

認知度:

第1回~第3回調査:「詳しく知っている」「名前は聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」「名前は聞いたことがあるが、内容はまったく知らない」の合計。 第4回調査以降:「よく理解している」「ほぼ理解している」「聞いたことはあるが、あまり理解していない」「聞いたことはあるが、理解していない」の合計。

出所:生活者16万人調査(2020年3月)



理解度は全世代で概ね向上60代は男女ともに37%超

	2016年11月	2017年3月	2017年8月)18年3月)19年3月		20年3月	差
	(第1回調査)	(第2回調査)	(第3回調査)	(第	34回調査)	(第	第5回調査)	(第	6回調査)	今回-前回
TOTAL	3.0	8.0	9.2		20.6		24.8		27.6	2.8
男性計	4.2	7.6	8.8		19.6		24.6		26.5	1.9
女性計	1.8	8.4	9.5		21.7		24.9		28.6	3.7
男性20代	4.7	8.0	10.4		16.2		16.8		16.8	0.0
男性30代	3.3	8.9	6.7		18.8		22.7		23.3	0.6
男性40代	6.3	7.0	5.9		17.6		22.5		24.6	2.1
男性50代	4.7	4.8	5.2		19.0		25.2		28.5	3.3
男性60代	2.4	9.0	15.7		25.6		34.3		₹37.5	3.2
女性20代	1.7	4.7	6.5		13.1		14.5		15.4	0.9
女性30代	0.0	8.5	5.5		19.3		20.2		23.3	3.1
女性40代	0.0	11.6	7.9		21.5		24.3		28.5	4.2
女性50代	1.9	11.5	13.2		25.1		29.0		33.9	4.9
女性60代	5.5	5.9	13.9		26.2		32.9		37.0	4.1

理解度:

第1回~第3回調査:「詳しく知っている」の値。

第4回調査以降:「よく理解している」「ほぼ理解している」の合計。

出所:生活者16万人調查(2020年3月)



利用意向は全世代で低位

	016年11月 第1回調査)	2017年3月 第2回調査)	2017年8月 第3回調査)	2018年3月 (第4回調査)	2019年3月 (第5回調査)		年3月 回調査)	差 今回-前回
TOTAL	17.6	15.5	19.8	10.9	11.0		12.1	1.1
男性計	17.1	14.3	19.5	10.4	10.6		11.6	1.0
女性計	18.0	16.7	20.1	11.3	11.4		12.5	1.1
男性20代	10.4	11.6	14.8	10.3	11.6		12.0	0.4
男性30代	19.7	17.1	26.1	11.8	11.5		12.3	0.8
男性40代	14.3	13.3	18.6	10.4	10.8		11.8	1.0
男性50代	15.0	12.7	15.5	10.1	10.2		12.0	1.8
男性60代	24.6	16.6	22.3	9.7	9.3		V 10.1	0.8
女性20代	14.4	13.4	16.8	11.5	11.9		14.1	2.2
女性30代	27.8	16.2	25.7	12.4	13.0		13.9	0.9
女性40代	12.4	23.1	19.8	11.4	11.8		12.8	1.0
女性50代	17.6	13.0	16.7	11.5	11.1		11.8	0.7
女性60代	18.3	18.5	21.3	10.0	9.6	V	10.6	1.0

利用意向:「利用したい」「まあ利用したい」「どちらともいえない」「あまり利用したくない」「利用したくない」の5段階のうち、「利用したい」の値。

出所:生活者16万人調查(2020年3月)

2021年までの時限制度であることは、6割が非認知

(%)	人数	認知度	理解度	利用意向	時限制 非認	
TOTAL	161,894	72.1	27.6	12.1		59.5
男性	81,283	69.5	26.5	11.6		56.4
女性	80,611	74.8	28.6	12.5		62.6
男性20代	12,958	54.8	16.8	12.0		63.4
男性30代	15,104	66.4	23.3	12.3		57.4
男性40代	19,588	70.3	24.6	11.8		56.6
男性50代	17,059	73.1	28.5	12.0		55.0
男性60代	16,574	79.3	37.5	10.1		51.3
女性20代	12,382	57.2	15.4	14.1		67.5
女性30代	14,691	73.3	23.3	13.9		64.3
女性40代	19,153	77.4	28.5	12.8		62.5
女性50代	17,012	80.2	33.9	11.8		61.4
女性60代	17,373	80.3	37.0	10.6		59.2

出所:生活者16万人調査(2020年3月)



利用したいと思わせてくれる拡充策は対象品目の拡大

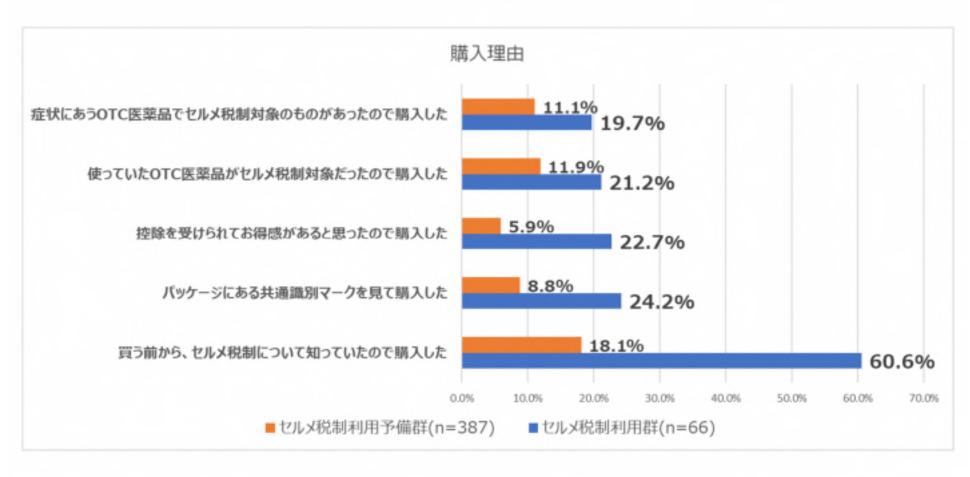
注)16万人のうちセルフメディケーション税制を「利用したい」と 答えた人について集計	(%)	全OTC に拡大	 告手続 5素化		下限 敵廃	利用したい と思わない
最も、利用したいと思わせてくれる拡充策	n=19,524	55.0	20.8	_	11.8	12.3
2番目に、利用したいと思わせてくれる拡充策	n=19,524	20.5	40.8		24.4	14.3
3番目に、利用したいと思わせてくれる拡充策	n=19,524	11.1	23.7		48.2	16.9

理想の還付金額は 税制利用予備群では「5000円くらい」が28.8%で最多

8

出所:生活者16万人調查(2020年3月)

セルメ税制利用群の6割が「買う前からセルメ税制について知っていたので購入」



出所:生活者16万人調查(2020年3月)

現況

認知、理解が進むにつれて、健康意識と行動は向上

(%)	TOTAL		セルメ税制 利用群		セルメ税制 理解層		セルメ税制 非認知層	
健康意識・行動	n=161,89	94	n=76		n=44,584		n=45,131	
軽い症状であればOTC 医薬品で対処する	22.	.7	6	6.9		28.0		15.6
インフルエンザ予防接種 を受けた	26.	.2	5	6.8		32.5		19.1
自分の体調変化を気に かけている	26.	.6	4	5.3		33.4		19.0
医療財政が破綻しない か不安である	9.	.5	3	8.2		13.8		5.3

出所:生活者16万人調査(2020年3月)

利用群、利用予備群の医療費、OTC購入は減少傾向

①セルメ税制利用群		医療費(受診・薬代)				OTC購入金額				
②セルメ税制利用予備群		増加-減少		変わらない		増加-減少		変わらない		
軽い風邪の症状・	①群	n=54		-22.2		16.7		-11.1		42.6
#主じ り玉いろりの力正1人	②群	n=341		-22.9		15.8		-22.0		36.7
重い風邪の症状・	1群	n=29		-3.5		31.0		-6.9		17.2
	②群	n=190		-12.6		27.9		-29.0		22.6
 軽いアレルギー	①群	n=53		-16.9		13.2		-11.4		43.4
	②群	n=279		-14.7		17.6		-22.2		28.0
重いアレルギー・	1)群	n=30		0.0		10.0		-10.0		30.0
	②群	n=157		-12.1		25.5		-17.2		29.9

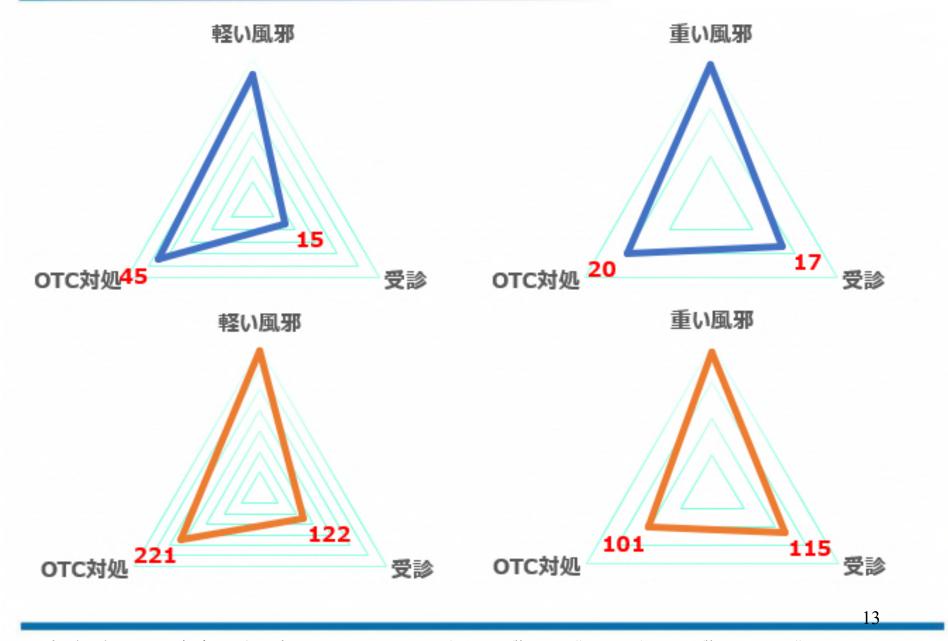
増加-減少:増減差(pt)、2019年は2018年より増えたという回答の比率-減ったという回答の比率

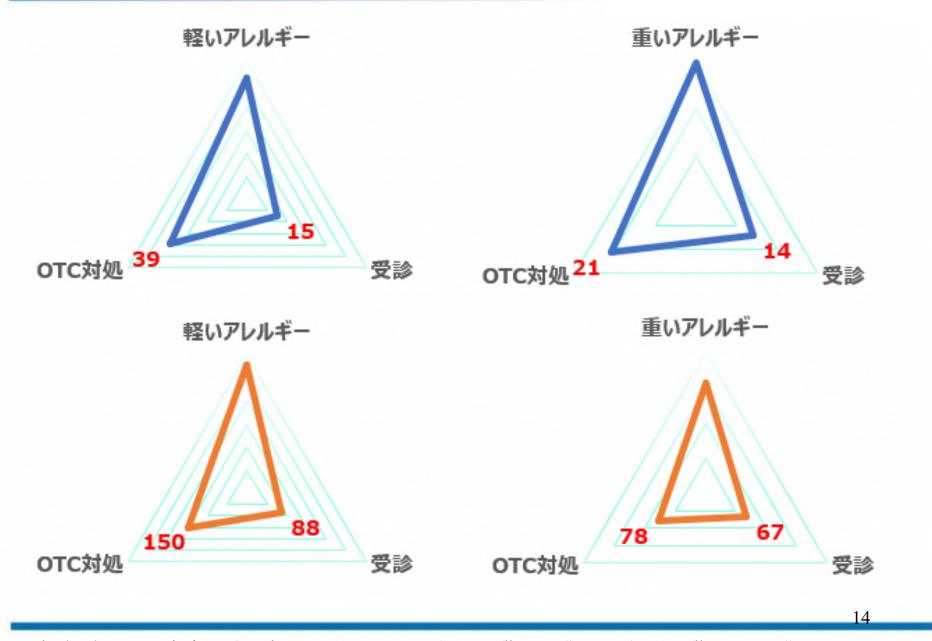
変わらない: 2019年は2018年と変わらないという回答の比率

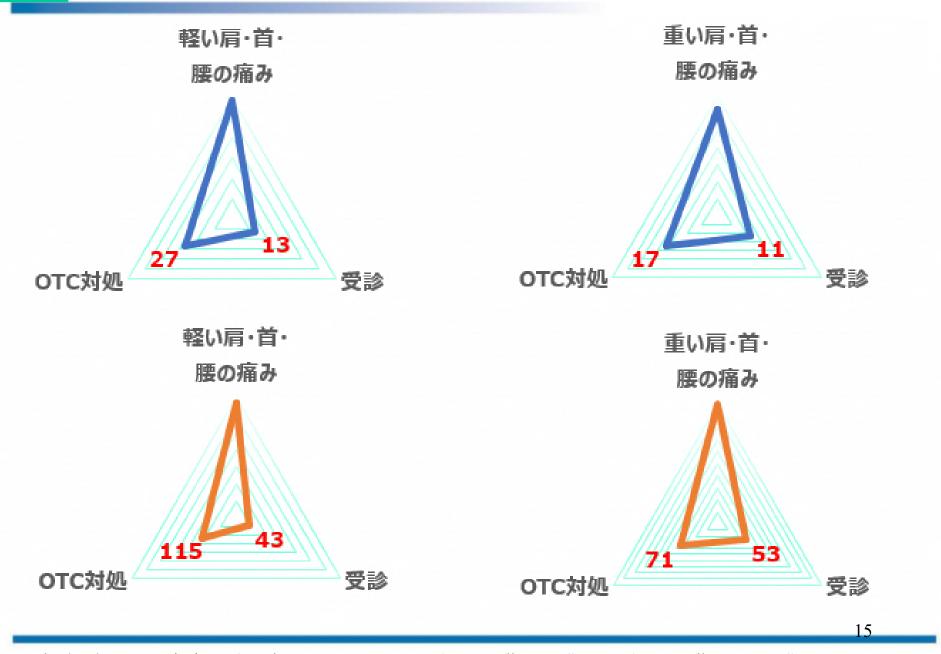
出所:生活者16万人調查(2020年3月)

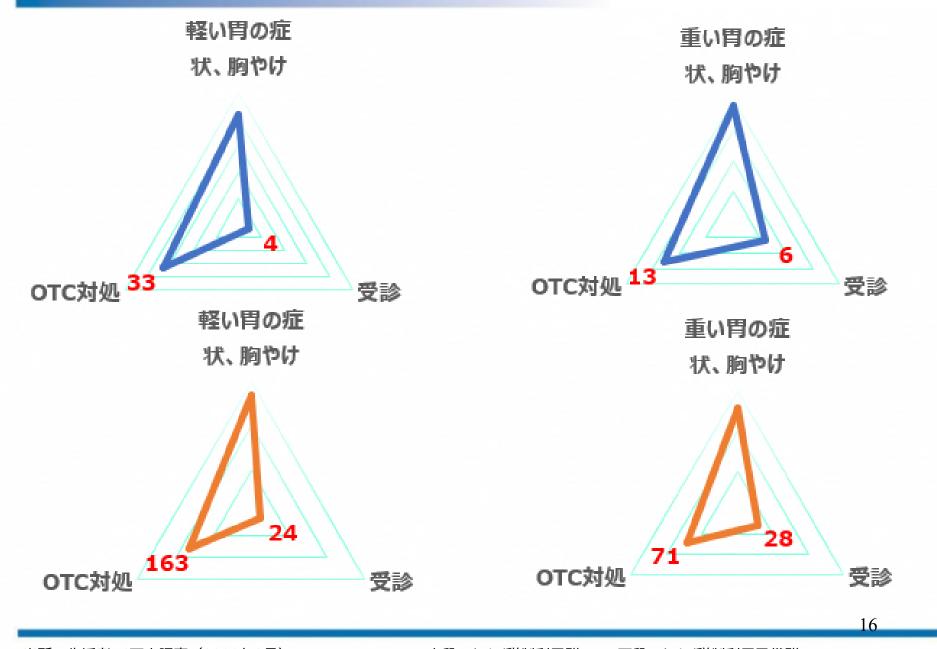
	n=66	n=430		n=66	n=430
単位:人	利用群	利用予備群	単位:人	利用群	利用予備群
軽い風邪 罹患	54	341	重い風邪 罹患	29	190
受診	15	122	受診	17	115
OTC対処	45	221	OTC対処	20	101
単位:人	利用群	利用予備群	単位:人	利用群	利用予備群
軽いアレルギー 罹患	53	279	重いアレルギー 罹患	30	157
受診	15	88	受診	14	67
OTC対処	39	150	OTC対処	21	78
単位:人	利用群	利用予備群	単位:人	利用群	利用予備群
軽い肩・首・腰の痛み 罹患	59	336	重い肩・首・腰の痛み 罹患	31	200
受診	13	43	受診	11	53
OTC対処	27	115	OTC対処	17	71
単位:人	利用群	利用予備群	単位:人	利用群	利用予備群
軽い胃の症状、胸やけ 罹患	42	272	重い胃の症状、胸やけ 罹患	19	129
受診	4	24	受診	6	28
OTC対処	33	163	OTC対処	13	71
単位:人	利用群	利用予備群	単位:人	利用群	利用予備群
軽い頭痛、生理痛 罹患	51	275	重い頭痛、生理痛 罹患	26	156
受診	3	18	受診	8	22
OTC対処	43	186	OTC対処	22	107

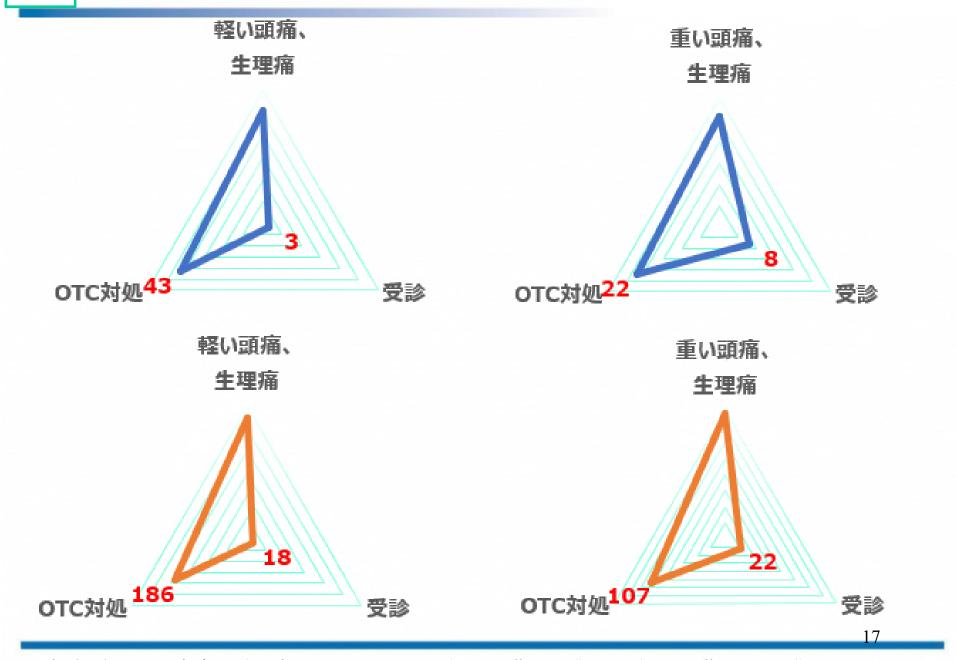
出所:生活者16万人調査(2020年3月)



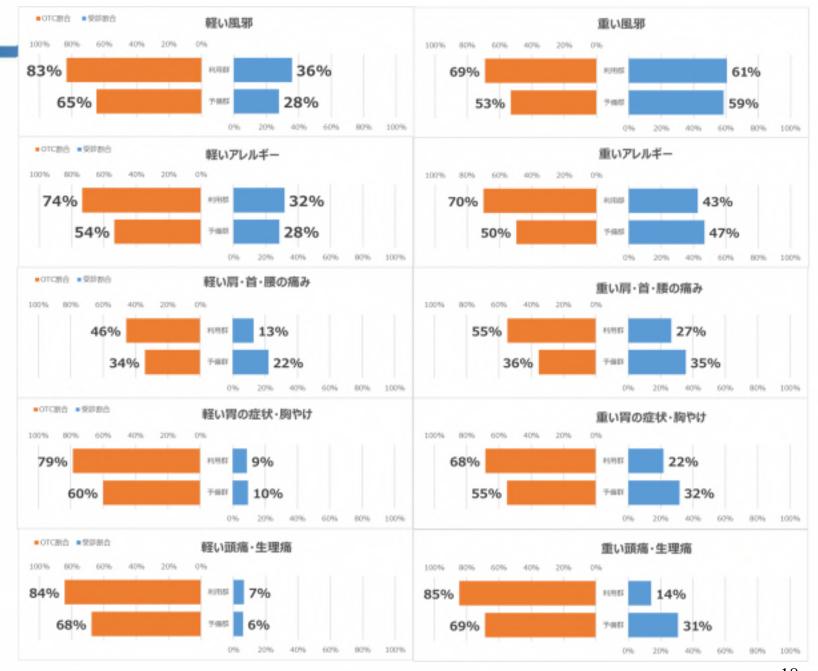




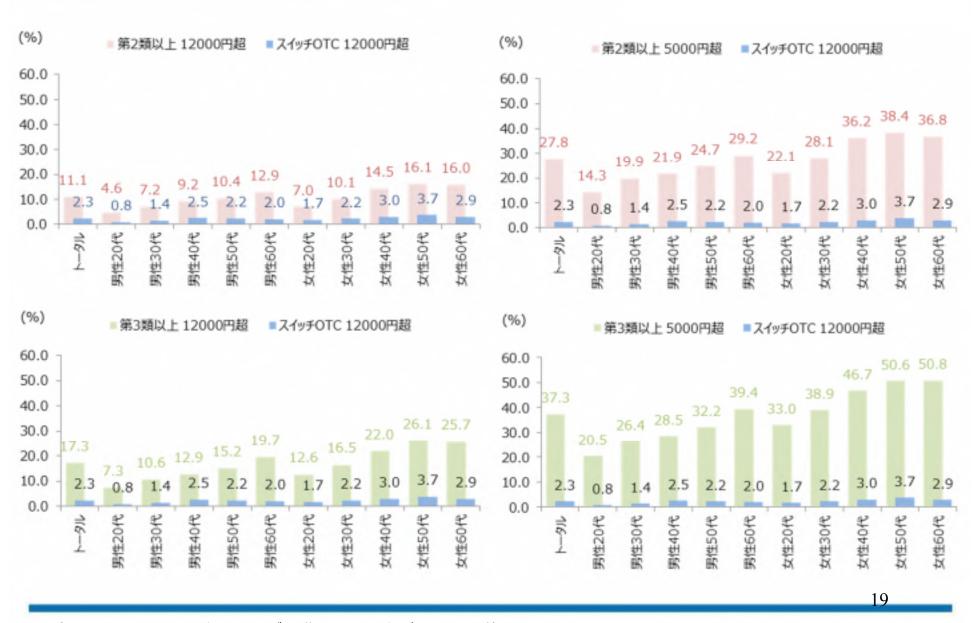




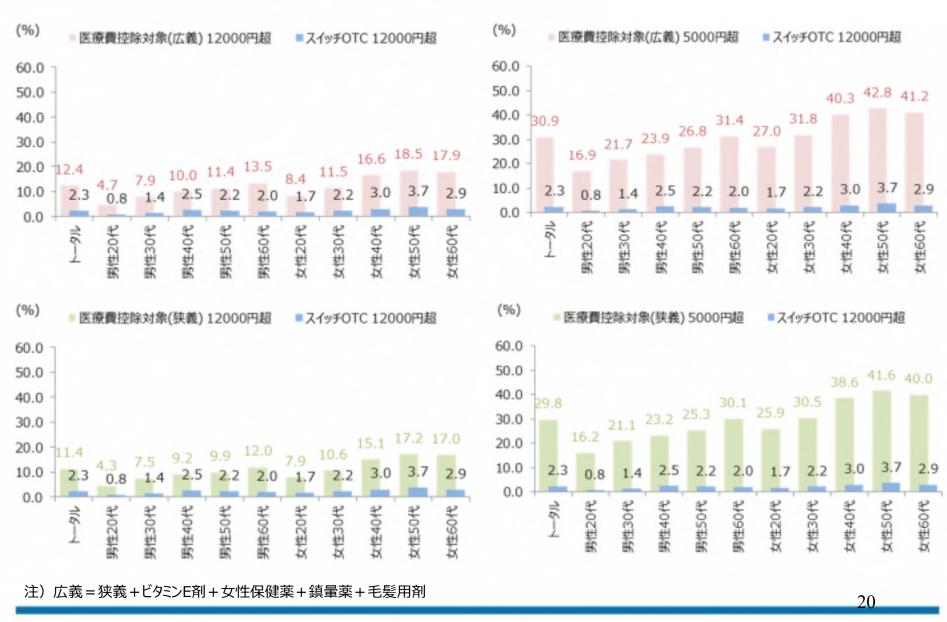




18

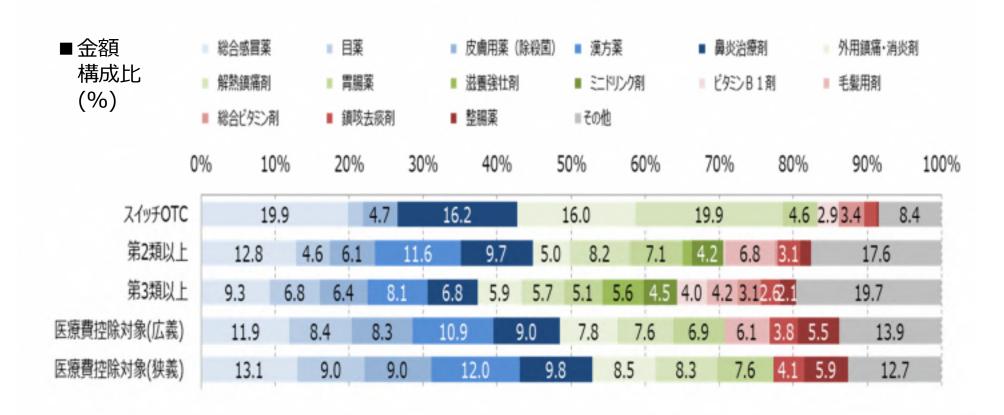


出所: SCI(20-69才男女個人) データ期間: 2019年(1月-12月計)



出所: SCI(20-69才男女個人) データ期間: 2019年(1月-12月計)

1万2千円超購入者の薬効(上位15薬効)構成比



出所: SCI(20-69才男女個人) データ期間: 2019年(1月-12月計)

拡充により減税規模は13億円に、

利用者は24万人に増加

	利用推計人数 (万人)	減税規模 (億円)
現状(スイッチOTC医薬品が対象)	3	1
医療費控除と同じ治療薬に拡大	15	6
全OTC医薬品(3類以上)に拡大	19	8
全OTC医薬品に拡大して、下限をゼロに	24	13

医療費控除の対象となる治療薬には明確な定義がないため、インテージSDIの42薬効のうち22薬効を指定して推計。 令和元年分の利用者数は4月末時点で3万人。(国税庁6月26日発表)

22

調査のまとめ

1. セルメ税制の現状

- ・2020年3月時点のセルメ税制の認知度は72.1%で前回と比べてほぼ横ばいの状況。
- ・利用意向TOP1もほぼ横ばいの状況で12.1%にとどまる。
- ・セルメ税制利用者構成比は、確定申告者ベースで0.10%(昨年は0.12%)。 令和元年分の申告者は2万人程度と推計され、今後の税制の利用拡大は見込みにくい状況にある。
- ・セルメ税制利用群は、「男性30代・40代」と「女性40代・50代」が中心、所得は「330万円超~695万円」。
- ・セルメ税制利用予備群は、「男性40代・50代」が中心で、所得は「330万円超~695万円」。

2. セルメ税制の課題と改正案による利用拡大ボリューム

- ・セルメ税制を利用する上でのニーズとしては、「申告対象となる品目を全OTCに拡大」が最も高い。
- ・セルメ税制利用群においては、「下限額の撤廃」を求める意見も多い。
- ・申告対象品目を全OTCに拡大し、下限を撤廃した場合(※年間1万2千円超の購入を申告条件とする)、 税制利用予備群からの利用拡大によって、セルメ税制利用人数は24万人、減税規模13億円にまで拡大すると推計。

3. 健康意識と行動変容、医療費への影響

- ・セルメ税制利用群、セルメ税制利用予備群ともに、2019年は2018年に比べて医療費とOTC購入金額の双方が低下する傾向にあった。
- ・風邪、アレルギーの場合で、病院受診、OTC対処の状況を評価したところ、セルメ税制利用群では、症状の重症度に応じてOTC購入か受診かを選択しており、セルフメディケーションの適切な実践が示唆された。胃の症状や頭痛・生理痛ではOTC対処の比率が特に高いことが確認できた。
- ・セルメ税制が行動変容を促し、セルフメディケーションの実践により、医療費が削減されることが示唆される。